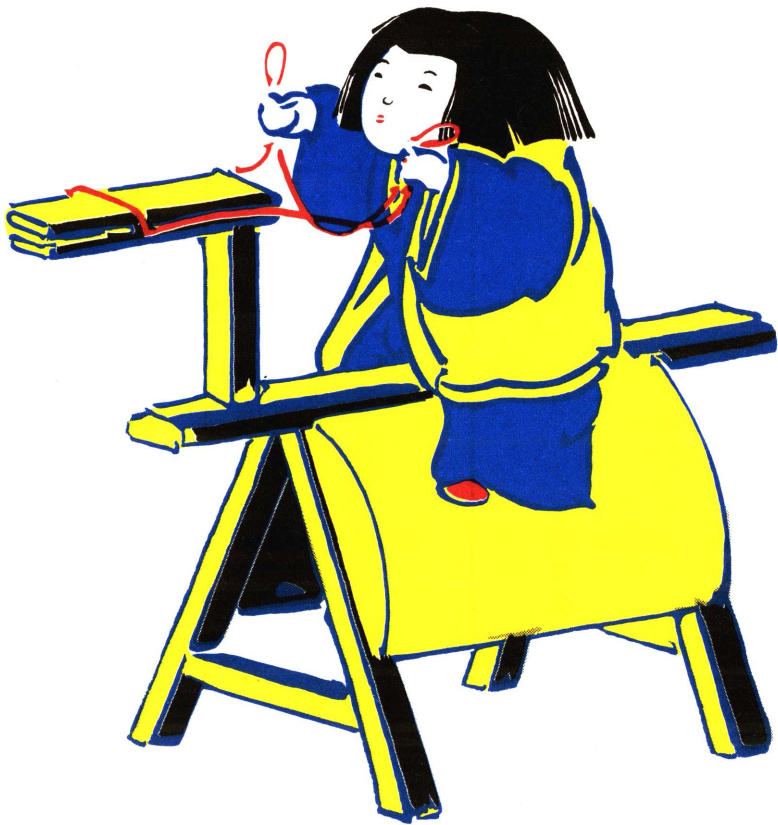


幼見之教育



號九·八第 號月九·八 卷二十四第

內校學範師等高子女京東

會協園稚幼本日

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

改訂 增補 系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金八錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要さから到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に互る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

幼稚園唱歌選集

B列四號五〇頁

定價金壹圓七拾錢
送料金八錢

幼兒の教育 (月刊)

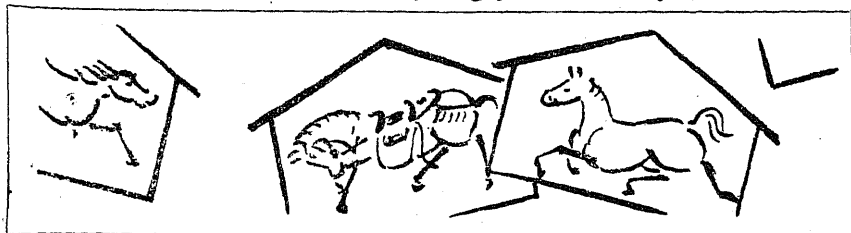
一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共

振替東京一七二六六

日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園
小石川大塚五三内

遂完勝必争戰亞東大



號九・八第 育教の兒幼 卷二十四第

——(次 目)——

戰時國民幼稚園(七).....	倉橋惣三(一)
國防國家の幼兒教育.....	倉澤剛(二)
幼兒の畫因.....	櫻林仁(九)
教養萬葉に於て日本的感情を見る.....	石井庄司(五)
十月の保育.....	
生活訓練.....	倉橋惣三(一九)
自由遊戯.....	上遠文子(二〇)
遊戯.....	古澤靜子(二三)
觀察.....	清水光子(二五)
談話.....	志村貞子(二七)
手技.....	及川ふみ(二六)
誘導保育.....	菊池ふじの(二八)
繪本唱歌に於ける拍子リズムに就いて.....	みざり會音樂研究部(三)
各地幼稚園だより.....	
大連市譚家屯幼稚園.....	小山田節(三)
臺北市私立錦幼稚園.....	竹下ナル(三)
講習兒童心理學(七).....	牛島義友(四)
この夏の本會主催講習會.....	(四)
幼兒の母.....	(四)
幼兒教育に於ける養護と鍛鍊(一).....	加藤恂二郎(五)
幼兒の積極的保健(一).....	齋藤文雄(六)
現時局下に於ける幼兒教育(一).....	倉橋惣三(七)

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本国旗の丸の旗
倉橋惣三 作曲
小松耕輔 作詞
次 道 ぶ し ん
倉橋惣三 作曲
井上武士 作詞

いうびんやさん
弘田龍太郎 作曲
渡し場の船頭さん
倉橋惣三 作曲
中山晋平 作詞
火消しのなごさん
倉橋惣三 作曲
小林つや江 作詞

日本幼稚園協會編 (新刊)

幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目 だ か
山崎耕輔 作詞
小松耕輔 作曲
次 杉山米輔 作詞
小松耕輔 作曲

ほ た る
青山綾子 作曲
小松耕輔 作詞
ふ し ん 場
小松耕輔 作曲
氏原銀 作詞

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。

戰時國民幼稚園

(七) 奉公の念

倉橋惣三

軍神を崇めらるゝ方々を始め、護國英靈の貴き戦功を仰いで、その勇、その斷への驚嘆禁止難きを思ふと共に、更に崇高の敬意にうたれるものは、その奉公の一念である。不純なく、迷妄なく、ためらひなく、くもりなく、一切を奉公の一念に懸けて、専心精進の誠、これこそ、その勇を發し、その斷を生み、荒爾さして、しかも恭謙に、その任に死せしめた所以である。その人に如何の力あり、如何の徳ありさしても私心を以てして、いかでか此の果敢に到らしめ得ようや。挺身の勇、突進の斷、もさよりその人の性に基き、平素の修練に據るころありさいふも、私心を以てして決して彼の従容あらしめるものではない。初めから奉公である。慮るころも奉公である。決するころも奉公である。奉公なるが故に私なく、私なきが故に勇、しかも自ら勇ませざる勇なるのである。身を愛せざるに非ず。家を思はざるにあらず。たゞ奉公の一念に傾倒没頭して一切私なし。尊崇すべきはその奉公の一念である。奉公は功を求めず。功を求めざるが故に、その死地の輕重を意こしない。たゞ時に臨んで、一身を捧げ、全力を盡し、自ら己れを失ふを顧みない。顧みないさいふよりも、初めから己れを忘れてゐる。敢て捨てゝあるさはいふまい。私を捨てゝ公にのみ生きてゐるころに、盡して事を残すなきを願ひ、盡して己れを存せんことを忘る。一切これ公、萬事はその中に發し、その中に消ゆるのである。

日本人がその素質に於て、その教養に於て世界に如何なる優位を占むるやは問ふまい。比して誇るべきの有無も問ふまい。寧ろ、その點に於て、自ら想ひ、自ら顧みて、その足らざるを憂へ、その尚ほ進むべきを勵めば足るのである。たゞ、奉公の一念に到つて、日本人は、その一切の價値をこゝに懸けてゐる。他國人に無くして、我れのみにより得るもの、實に此の一點である。日本の奉公の一念、之れをいつくし求め、いづれを比するこゝが出来よう。之れ日本人獨自であると共に、日本人に獨自たらしめる。日本の國家的獨自があるのである。こゝに日本あり、日本人あり、日本人の勇あり、斷あり、一切の優があるのである。

奉公の一念へ。われらの幼きもの、心を培はう。弱いものも之れによつて強者たらしめよう。賢ならざるものも之れによつて賢者たらしめよう。而して、奉公の念を養ふものは奉公の念のみである。お互も亦弱く、賢ならざるを知るけれども、奉公の一念を以て、國民の保育者たるを得るであらう。保育を以て奉公し得る前に、奉公の一念を以て辛うじて國民の保育者となり得んことを希はう。

國防國家の幼兒教育

東京女子高等師範學校助教授

倉

澤

剛

—

およそ國民の教育は國家の經綸を裏し、國策の完遂に必須な國民資質を鍊磨育成するものでなくてはならない。下は幼兒の保育から、上は成人の教育に至るまで、およそ國民教育はかゝるものとして運営されるのでなければならぬ。いふまでもなく皇國の國策は、あくまで大東亞戰爭に勝ち抜き、米英の桎梏から東亞を解放し、道義に則る東亞新秩序を建設するにある。しかるに戰爭を完遂し、東亞を建設するためには、速に高度國防國家の體制を整へ、國力及び戦力を定期的に増強する必要がある。われ／＼は今や肇國の精神に基づいて東亞建設の大業に發進したのであるが、その成るや否やは一に皇國が高度國防國家を建設しうるや否やに懸つてゐるのである。かくて高度國防國家の建設こそは、皇國內外の歴史の現實が、われ／＼の上に投げかけてゐる。いはゞ至上命令である。そこで、政治も經濟も軍事も思想も文化も、今やここぞとく國防國家の強化を目的として、急速な再編成を迫られることゝなつた。中にも國民教育は國防國家建設の基礎として、嚴に國防國家の要求に合致するやうに樹直されなければならないことゝなつた。すなはち國策完遂の基礎條件たる皇國の教育は、將來長期にわたり、あくまで國防國家の教育體制として、清新な構想のものに周密に整備せられるのでなければならぬ。それは單に今次の大東亞戰爭に勝ち抜きただけではない。肇國の精神にもとづいて、世界史を創造しようとする、皇國の歴史的現段階に對應せんがためである。従つて、それは、教育の戦時態勢化といふやうな臨時的措置に止まるものではない。むしろ國民教育の眞個日本の建設ともいふべき恒常的課題である。かくして皇國將來の國民教育が、國策完遂の根基に培ふことを目的とし、あくまで高度國防國家の教育體制として整備せらるべきは明瞭であらう。幼兒教育の問題もまた、この觀點より、一深刻な反省を周到な工夫が加へられなければならないのはいふまでもない。

あらう。

二

こゝに國防國家の教育體制といふのは、要するに國防國家の要求に合致する如き人的資源を育成確保し、國力及び戦力の根源に培ふべき教育の組織・内容及び方法の體系を意味する。そして國防國家といふのは、國家の生存を權威を護持する國防の完璧を以て最高の國策とし、政治も經濟も軍事も思想も文化も、こゝこゝこの最高國策に奉仕する如く統制し、國家の總力を國防強化の一點に集中する國家體制のこゝである。かゝるものとしての國防國家は、單に艦船・兵器・彈藥その他の物的戦力を整へただけでは得られない。同時に、國民の精神的團結、不屈の戦意、旺盛な殉國精神、高度の技術水準なき、いはゆる精神戦力を強化するものでなければならぬ。近代戦はかゝる物的戦力と精神戦力との渾然たる綜合の上に戦はれるのである。單に龐大なる軍備を具へるものが國防國家であるのではない。眞の國防國家は、周密なる計畫のもとに、あらゆる人的國力及び物的國力を、戰爭目的に向つて最高度に發揮し得る如き態勢を整備せる國家でなければならぬ。國防國家の教育體制は、かゝるものとしての國防國家の要請に即應しなければならぬから、廣く深き教育的視野に立つて、一切の國民教育力を綜合的に動員し得る如く構成するものでなければならぬ。幼児教育の問題も、かゝる教育體制の一翼として、極めて重き任務を擔つてゐるのはいふまでもない。われわれは、周密な配慮を拂つて、國防國家の幼児教育を建設しなければならぬのである。

しかし國防國家の幼児教育といつても、單に勇敢なる戦闘員を育成する教育といふやうに狭く考へてはならない。近代戦は國家總力戦である。物心兩面にわたる國家の總力が充實され、且つそれが戰爭目的に集中されるのでなければ近代戦には勝てないのである。かゝる近代戦の特質に應ずるためには、國民教育は廣く深き視野に立つて、國家の總力を培育する如く策案するものでなければならぬ。國防國家の幼児教育も、廣く國家總力の根源を培養することを目的とするのでなければならぬ。戰爭の完遂、東亞の建設、これに伴ふ國內建設、その基底としての生活原則の革新なき、おおよそ皇國將來の國家的使命を、これを具現すべき皇國民の任務を深く洞察し、青少年學徒に賜はりたる勅語に仰せられた、「負荷ノ大任」を全うするに足る國民資質を目的とすべきであらう。かくして國防國家の幼児教育といつても、そこには廣い教育的視野が要求せられると共に、他のあらゆる國民教育の地盤として、これとの關聯において綜合的に考究せられるのでな

ければならない。

三

國防國家の幼兒教育を以て、まづ第一に大切なのは指導精神の確立であらう。本立ちて未整ふ。われは何よりも幼兒教育の正しい目標を方向を捉へてゐなければならぬ。個々の技術の工夫や考案ももより大切であらう。しかし、かゝる工夫や考案も、正しき指導精神に導かれなければ無意味に終るの他はない。幼兒教育の問題についても、今日の急務はまづ指導精神の是正であらう。

さて幼兒教育の指導精神を以てても、その大體の方向は國民教育の一般目標以外のものであり得ないはいふまでもない。少くも新制國民學校によつて是正せられた國民教育の指導精神は、やがて我が國の教育一般に貫かるべきはいふまでもない。つまり、皇國の道に則つて、皇國民を錬成するに國民學校の教育理念は、あまねく皇國教育の建設理念であり、やがて幼兒教育の指導精神でなくてはならない。しかし幼兒の教育は、國民學校兒童の教育と全く同様であつてよいといふのではない。こゝに幼兒の教育といふのは、本來家庭における幼兒教育であり、國民學校入學前の教育である。それは學校における幼兒教育ではなくして、家庭における幼兒教育である。幼稚園の保育は、主として家庭における幼兒教育を補充するものとして考へられるから、その基本的な性格はやはり家庭における幼兒教育として規定せられる。かゝる家庭における幼兒教育が學校における兒童教育と全く同様であつてよい筈はない。同じく皇國民の錬成を目指しても、家庭及び幼稚園の幼兒教育には、おのづから特殊の任務と獨自の形態とがなくてはならない。そして、特殊の任務といふのは、國民的性格の基底を養ひ、皇國民育成の素地に培ふことであり、獨自の形態といふのは、意圖的な働きかけといふよりも、むしろ自然の感化に俟つべきことである。かくして家庭及び幼稚園の幼兒教育は、あくまで日本の幼兒として、日本人に生まれた喜びと、ほこりを感じさせ、中にも皇室のありがたさ、たうとさ、日本國のををし、たくましさを感じさせ、いつしか日本國民本來の感じ方、考へ方、行ひ方に導き、やがて日本の性格が見事に打建てらるべき素地に培ふことを目途すべきであらう。

國防國家は何よりも國民が日本人たるの意識に徹し、臣道實踐のまごころに生きることを要求する。一億の國民が、醜の御楯となつて、大君にまつるふことを要求する。こゝに皇國獨自の國防國家建設の地盤が始めて與へられる。そこで、

國防國家の幼兒教育は、あくまで日本の幼兒をして日本人としての意識にめざめさせる芽を培ふのでなければならぬ。かくして、幼兒教育の本來の性格から考へても、國防國家の獨自の要請からしても、日本の幼兒教育の眼目が、一に日本國民としての意識、皇國民本然の性格の基礎を固めるにあることは明瞭であらう。ここに我が國幼兒教育の正しき目標があり、指導精神がある。

四

この觀點に立つて在來の幼兒教育を反省するべき、そこには速かに是正を要するものが決して少くない。第一は幼兒觀の問題である。われわれの幼兒はいふまでもなく日本の幼兒である。日本人の血を受け、日本の國土に育まれ、わが大君の御めぐみに生き、日本を背負つて立つ少國民である。日本國といふ祖國をもち、日本國民といふ運命共同體の一員としてのみ具體的に存在するものである。これはあまりに自明のことである。しかるに、この自明のことが從來久しく無自覺のうちに放置せられた。かつては幼兒一般のみが自覺せられて、日本の幼兒が殆ん自覺せられなかつた。ここでは幼兒は祖國をもたない漂浪者であつた。もし幼兒に祖國があるとするれば、それは天國といふ祖國であつたり、淨土といふ祖國であつたりして、日本といふ祖國が殆ん全く忘れられてゐた。基督教主義の幼稚園や佛教主義の幼稚園には、この種の幼兒觀が廣く行はれてゐたし、一部の幼兒心理の研究者の中にも、幼兒一般のみを見て、日本の幼兒を忘れる誤謬に陥つた者があつた。しかし、かくの如きは誤れる世界主義、空虚なる人道主義の一表現に過ぎない。われわれの幼兒はあくまで日本の幼兒である。幼兒はすべて歴史的・國家的存在である。われわれは何よりも幼兒の國家的性格を高調しなければならぬ。

五

第二は教育觀(保育觀)の問題である。かつては教育は天賦の素質の自由なる發展を助成する作用を説かれ、或は人間の性的調和的發達を促進する機能を論ぜられた。しかし、このやうなものが果して國民の教育であらうか。このやうなことが果して國防國家の國民教育であらうか。なるほざわれわれの教育は幼兒の素質の開發に向けられるであらう。けれども單なる素質の開發が教育の目的ではない。教育の目的はあくまで國家の要求に副ふ如く、國防國家の要請に合する如く、國民の資質を鍊成するにあるのでなければならぬ。自由主義國家においては、教育は國家のこゝであるよりも

寧ろ各人のこころをせられた。しかるに國防國家においては、教育は各人のこころであるよりも寧ろ國家のこころをせられる。そこで、國家は國防國家建設の不可缺の要件として國民の教育を重視し、これを國防國家の要求に合致せしめる如く統制を強化する必要に迫られるのである。かくして、教育の國家的性格は年々共に前面へ押出されることとなつた。

國家はわれわれの幼児の上に死活的な期待をかけてゐる。そして、國家は家庭における幼児の上に直接教育の手をさしおかないが、子女の教育について、保護者に大きな期待を信頼をかけてゐるのであつて、現に家庭教育に對する國家の關心は年々共に昂まりつゝある。保護者は國家の期待に副ふやう、國家の信頼に應へるやう育て上げべき責を負ふのである。また實際、わが子の躰を怠つては世間に相すまないといふのが日本人本來の真情である。そして、こころを正しい教育観がある。

かつては幼児の素質なるものを極端に讚美し神聖視し、その發達段階を自發性を不當に重視し絶對視し、伸びゆくものを伸ばせるかぎり伸ばしてやるのが教育の任務とせられ、その目標が著しく不明確であり、一部の基督教主義幼稚園にあつては、神の生ませる幼児を天國に憩はせるところに保育の目標を置き、殆んど國家を忘れ、國家の要求には一顧だに與へない有様であつた。われわれはいはゆる天國に代へるに國家を、日本を、國防國家を以てしなければならぬ。かくして幼児の國家的性格を教育（保育）の國家的性格が前面に押出され、こころに家庭教育の新體制を、いはゆる國民幼稚園の登場が齎され、わが國の幼児教育は漸く國防國家の幼児教育として整備せられるに至つたのである。

六

幼児教育本來の場所はあくまで家庭である。もし家庭にして、眞に日本の家庭として、教育的に整備せられるならば、別に幼稚園や託児所を特設する理由は著しく減するであらう。しかるにわが國の家庭は未だ十分教育的に整備せられるに至つてゐないので、これを教育的に補充するものとして幼稚園が要求せられる。幼稚園の任務はあくまで家庭教育の補充にあつて、決して國民學校への豫備にあるものではない。そこで幼稚園は學校化せらるべきでなく、却つて家庭化せらるべきであり、あくまで日本の家庭化、皇國本然の家庭化せらるべきである。あくまで皇國の傳統に貫かれ、日本家庭としての潤ひを温かさ道義を、しさを信仰に包まれた、皇國の香りゆかしい日本の家庭として構成され、幼児はこの香りのうちに、いつしか日本の幼児として、日本國民の意識にめざめさせられるやうに配意されるのでなければならぬ。

學校化でなくして家庭化、知識的といふよりは體験的、訓誡訓諭といふよりは自然の感化、こゝに幼稚園保育の獨自の形態があるのはいふまでもない。世には理解力に乏しい幼児に向つて國防國家の教育を、日本國民の意識を企てるのは無理ではないか案ずる向もあらう。しかし、われ／＼は知的理解を與へようとするのではなくして、情的體験を育まうとするのである。「見あやかり、聽きあやかり」させようとするのであつて、口で説き明かさうとするのではない、それが不可能だか、無價値だか感ずる人があるとしたら、かゝる人は幼児教育の重大さを解し得ない人といはなければならぬ。われ／＼はをしへの根本を古人にたづねよう。

子孫をしゆるには幼少のときを根本とす。むかしは胎教とて、胎内にあるおひだにも母徳の教化あり。いま時の人には至理をしらざるゆゑに、おさなきうちには、をしへはなきものなりと思へり。教化の眞實をしらすして、たゞ口にていひをしへぬるばかりを、をしへと思ふよりおこりたるまよひ也。根本眞實の教化は徳教なり。くちにてはをしへずして、我身をたてみちをおこなひて、人のをのづから變化するを徳教といふ。

これは中江藤樹先生の有名な「翁問答」の一節である。わが國に傳統されてゐる幼児教育の本質を説いて餘すところがないではないか。

七

その他國防國家の幼児教育として論ずべきものが少くないが、こゝには綱目的に主なる著意を列挙するに止める。

第一に、國防國家の幼児教育としては、體力が絶對的に重視されなくてはならない。強く育てよ、お國のために。これがいよいよ幼児教育の筋金である。人の不足は現下わが國の最大の惱みである。あらゆる手段を盡くして幼児の死亡率を低下させなければならない。健兵對策は幼児の頃から配慮されねばならない。幼児は國防國家の寶である。何にしても強く逞しく生ひ育てなければならない。そのためには國家みづから幼児の體力を管理保護する政策が年々共に強化せられるであらう。幼児教育者はこれと緊密に結びつき、家庭と協力して國防國家の要求に副ふやう大いに努力しなければならない。

第二に、國防國家においては健兵眼、感覺ここに眼及び耳視力及び聴力の保護及び訓練が重視されなければならない。優秀な軍隊を作るには、單に一般體力が向上するだけではなく、視力及び聴力が強化されなければならない。高度に精密化せられた近代機械兵器を残りなく活用するためには、單に身體が強健であるといふだけでなく、視覚・聽覚・均衡感覺等

が保護訓練されてゐなくてはならない。しかもそれは、幼児の頃から、生活の指導をして、遊戯の指導をして、早くから配慮されなければならない。就中近視の著しく増大する現状は、もはや到底放置し得ないことである。健兵對策と共に感覺訓練の問題は年と共に重要性を加へるであらう。これと關聯して考慮すべきは身體のこなし、身體諸部の巧緻な支配の訓練である。山や河や、坂や谷やをすばやく駆けめぐり、藪や岩影や樹木や森や、あらゆる地物を活用して、巧みに身をかくし、自由自在に身をかはすといつた訓練が工夫されなくてはならないであらう。

第三に、皇室を始め奉り、高貴な方々への敬虔な敬ひの心と、その作法と、言葉遣ひとが、更に一段とおごそかに躰けられなければならない。こゝでもまだ幼少だからといつて不當に同情することは戒めなければならない。幼少の頃こそ、一層大切なをしへの苗床として、上御一人に對し奉る民の心を培はなければならない。われわれは將來の日本を考へ、この方面を更に一段と強化せねばならないと信ずるのであるが、その根本はやはり幼児の時代から植付けるのでなければならない。

第四に、勤勞は國防國家の教育として、みんなに高唱しても高唱し過ぎるまいふことがない。働くこと、専心すること、喜んで手足を働かすこと、働いて創り出すこと、始めたら貫くこと、じつとある事に堪へさせること、作り出すことの喜びに浸らせること、およそ長じて勤勞の人となるべき習慣は幼児のときから周到に配慮せらるべきであらう。幼児の世界が主として遊戯であるといふことは誤ではないであらう。しか、さればといつて作業的態度の育成は決して輕視されてはならない。頭と舌との幼児ではなく、同時に手足と身體をいつも働かしつゝ伸び行く幼児こそ大切である。われわれはこゝでもまた實學の尊重を叫ばなければならない。(昭和十七、七、一稿)

幼兒の畫因

東京帝大心理學研究室 櫻 林 仁

子供はどんな繪を描くのかしら、と云ふ疑問は、多少とも兒童に關心を持ち始めた人々の心にいだかれる問のいでせう。けれども、兒童の保育にたずさわつた經驗のある人なら、直ぐにも答へられる簡単な質問なのでせうが、必ずしもその答が各人一樣だとは云へないのです。ドイツの兒童心理學者ウイリヤム・シュテルンやカール・ビュラーを始め、兒童畫を大量的に取扱つた事のある、ケルシエンシユタイナーやレヴィンシユタイン等は、兒童が最も多く描くのは人間で、動物が之に次ぎ、植物などは餘り描かれない。それは兒童が生きた動くものに興味を感じるからだといふ。それは居ります。所がノールウエーの兒童心理學者エングはそんな事はないと云つてゐます。彼が調べたノールウエーの幼兒達は動物を餘り描いてゐないのです。同じドイツでもヘッツァーはウイーンの兒童が半數は家を描いてゐると報告してゐるし、フランスのリユケも兒童が人間を多く描く事は認めるが、それに加へて、一般に云はれてゐる様に、動物が家加はつた丈で、兒童の描畫目錄がつきる様

に考へるのは尙早で、兒童はその個性や環境によつて色々なものを描いてゐて、畫因は云はば無數であるまで云つてゐます。日本では三田谷博士が幼兒の繪を一千枚ばかり集めて調べてみた所が、男兒も女兒も動物をほゞ描いてゐません。(わづか一%餘り)そして男兒で一番多く描く對象は人間より乗物なのです。女兒でも人間より家や植物を餘計に描いてゐます。關西學院の今田教授もやはり、幼稚園から四千枚餘りの自由畫を集めて調べられましたが、描かれる對象の順位は、男兒では乗物・人物・旗の順で、女兒の方は植物・家屋・人物の順位に多く描かれてゐますが、動物などはやはりつゞき少くして約五%位です。それなら日本の子供はこれも動物を餘り描かないのかと云ふと、さうではなくて、久保博士のお子さんは、人物より動物を餘計に描いてゐますし、波多野さんのお子さんも動物を一番多く描いてゐたのでせうか。それならばさうしてこんなにちがひが出て來るのでせうか。波多野さんの長男の場合は、いつも動物のおもちやに圍まれてゐましたし、

動物園にも度々行くのです。ウィリヤム・シユテルンの息子のギユンター君も始めは動物ばかり描いてゐましたが、旅行につれて行つた後には、今度は盛んに風景畫を描く様になりました。更に、ルイズ・メートランドが紹介してゐるエスキモーの兒童畫には全く植物も名づくものが描かれてゐないのです。こんな點からみて、一應環境の相違によつて、餘程兒童の描くものが違つてゐるのではないか云ふ考が浮んで來るでせう。それで私は色々環境的に特殊な場所の兒童に繪を描かせてみました。今こゝには大きく、都會の山手と下町及び農村兒の三つに大別して、その傾向を紹介してみませう。先づ最も多く描かれる對象についての順位を見ます(二六歳兒について)次の様になりました。

かうした漠然とした環境の分類によつても、すいぶん描かれるものに相違があるのに氣がつくでせう。表だけではつきりしないでせうから、その特徴をひろひあげて敘述してみます。先づ下町の兒童から始めませうか。こゝの兒童は人物の次に什器つまり家財道具を多く描いてゐるではないですか。山手の幼稚園兒なきはほんま描いてゐません(約八割)、農村兒も少ないのですから、これは、云はば下町兒童の專賣特許でも云ふ可きでせう。何しろこま／＼とした家財道具をつらり／＼並べて描くのですから。

山手	山	町	下	村	農
	%			%	
1 植物	51.	1 人物	54.	1 旗	68.
2 乗物	44.	2 什器	50.	2 植物	43.
3 家屋	43.	3 乗物	48.	3 人	41.
4 人物	30.	4 家屋	42.	4 乗家	32.
5 動物	18.	5 旗	38.	5 家	31.
6 土	17.	6 武器	29.	6 動物	16.
7 武器	13.	7 植物	27.	7 什器	15.
8 旗	12.	8 火	23.	8 遊具	12.
9 火	9.	9 遊具	6.	9 食物	9.
10 什器	8.	10 食物	6.	10 土	8.
11 遊具	4.	11 土	4.	11 武器	7.
12 模	3.	12 動物	2.	12 武器	1.
13 食物	3.	13 模	0.	13 模	0.

それならこんな内容のものが描かれてゐるかのぞいて見ませう。まづチャブ臺・チャワン・オ皿・ハシ等の食事に關するものから、ツボ・セットモノ・ザル・パケツ・ハイトリ・下駄箱・ゴミ箱チャダンス・火鉢なきから、フトン・マクラに至るまで、まるで大掃除でござつたがへしてゐる様ではないですか。

農村では少ないながらもやはり食事道具を描くのも居ますが、タンス類は全く描かれませんが、山手では勿論皆無です。描いてもせい／＼カーテンとか、バスケット・日傘位です。それからまた、下町で特徴のあるのは、武器や火、つまり戦争をあらはす繪でして、農村・山手兒童に比べてすつと多いのです。ですからこの點からみても、下町兒童は山手や農村兒に比し比較的好戰的で、山手や農村の兒童は逆により平和的だ云へないでせうか。

それから下町兒童は都會兒童だから、同じ山手兒童さ描くものが似てゐても、農村さはずい分かけはなれてゐるだらう、さお考へでせうが、案外似てゐる點もあるのです。旗や遊具、食物などは山手に比して共に多い傾向を示してゐます。もつとも遊具を多く描く云ふ事は一寸不思議に思はれるでせう。なぜなら、遊具を一番豊に持つてゐるのは山手兒童でせうから。けれども山手兒童の持つてゐる遊具はみんな種類のものでせう。それは人形にしろ乗物にしろ、具體的な世界を空想させ、その空想の中で楽しむ様なものが多いでせう。ですから繪に現はれるにしても具體的な實物さして表現されて來るわけです。之に反して、下町や農村では、かうした現實を模造した様な空想的な文化遊具ではなくて、玉つころさか陣取さか地面の上で勝負を戦はせて、その戦の持つスリルを楽しんだりするのが下町

兒童の遊びであり、凧なさをあげて遊ぶのが農村兒の楽しみなので、この事は云はば下町や農村兒が、山手兒の現實空想的な遊びにふけるのに反し、専ら遊びそのものの形式を持つ現實的な楽しみをふけてゐる事を意味するもの云へるでせう。もう一つ似てゐるのは食べる物が割合に描かれる事で、山手兒童は描いてもせい／＼果物、それも樹になつてゐる様なものが多いですが、下町では果物も勿論入つては來ますが、むしろ、御飯・オカズ・お酒・オダンゴ・イモ・アメダマ等が主調なのです。農村では果物に野菜が加はり、その外にモチや團子などが見られたりして、如何にも農村的です。かうした事は農村や下町の兒童が山手の兒童に比べて、生活的に共通な低さを持つてゐる事の現さみること出來ませう。生活的に低ければまた、教育的にも低い事がうなずかれるでせう。ですから旗や人物などの比較的初期の描畫對象が農村や下町に多い事も理解出来る事だ。

この様に下町さ農村は階級的な點で似た傾向を見せてゐるのですが、また他の方面では山手兒童の繪がかへつて農村兒童の繪に近い面をも持つてゐるのでして、その共通點さは、云はば共に田園性を持つてゐるさ云ふ事にある云へませう。なぜなら植物に於ても動物に於ても、山手兒童は農村兒童さ共に下町兒童よりはるかに多く描いてゐるの

ですから。

けれども、やはり山手兒童と下町兒童とは同じ都會の子供なので、ちがふなかにも共通な傾向が見られるのは當然でせう。その共通性は乗物と家屋の多い所に見出されませう。これをまあ都會性でも云つておきませうか。

かう云ふ風に、この廣い三つの環境の中でも描かれる物が率がすいぶん違つてゐるのが見られるでせう。それだから前に述べた人々が、それ／＼、ま／＼な意見をはいてゐるのも當然だと思へるでせう。

ついでにこゝで、發達の事について少し述べさせていただきます。云ふのは、始めからそのつもりで、對象表の中から地面や空や太陽や無意味描畫についての項目を抜かして置いたのですから、かう云ふ種類の對象は、他の對象と同じに取扱ふよりも、發達の標識として取あげてみる方が適當の様に思へるのです。發達を見るのには搔畫時代と圖式時代とに分けてありますが、之はつきり五分かれてゐるわけでもないのですし、圖式時代と云つても可成長いのですから、その外にも發達を見分ける標準が発見されれば、それに越した事はないでせう。それで労働科學研究所の桐原博士はずつと以前に、人物畫に現はれた細部描出度によつて、兒童畫の發達程度を見る標準を考案なさいました。女性が男性より人物を普段多く描いてゐるの

で、女性の方が發達してゐると思ふ事になつてしまふのですし、逆に乗物では男性の方がずつと上手なのです。そこで、女性にも男性にも平等な發達標準として、天地の形成つまり空間形成に著目するのが一の良い方法ではないかと思はれるのです。無意味描畫が次第に消えて來る頃から、そろ／＼空と地面とかが描かれて來ますし、そして四歳から五歳・六歳・七歳と年長になるにつれて増加して來るのですから、まことに／＼はつきり判別出來るのです。これにそつて面白い現象が天體つまり太陽や月の描出に現はれて來ます。天體の描出はあたかも幼兒の繪の典型的な傾向の様に思はれてゐる様ですが、よく觀察するに、その中にも、年齢によつて、消長のあるのにお氣付きでせう。つまり、空が描き始められる頃（五歳以前には、餘り描かれないに、空が描き始められると同時に、急に猫も杓子もおまじなひの様に描き入れてゐますが、七歳頃になつて、多少とも現實の描寫に近づいて來るに、天體もほん／＼描かれなくなつてゐるのですから。それでこゝに無意味筆跡・天體をふくむ天地描出・天體をふくまない天地描出の三傾向によつて大體の發達傾向を見ることが出來ると思ふのです。勿論例外もあり絶對完全と思ふ事は他の智能テストと同じ様に云へないでせうが、さしあつて最も簡單ではつきりしてゐる様に思へるのです。この方法で男女を描畫的に比較し

ます。大體同じ發達程度だ云へるのです。これによつて山手・下町・農村兒童の發達を計つてみましたら、勿論山手が一番發達してゐますが、下町・農村では下町の兒童の方が發達してゐました。

以上は大體環境云ふものがどんな風に兒童畫に影響を與へてゐるかを三つの環境別に調べてみたのですが、一般に環境を申しても、決して客觀的に人間を取巻いてゐるから云つて同じ様に各個人に働きかけ、影響を與へてゐることは云へないのです。そこにはやはり個人的な環境への反應の仕方によつて、現實に働きかけて來る主觀的な環境を作り出してゐる云ふ事が出来るでせう。例へば私が或軍港地の兒童畫を、陸軍演習地の兒童畫を調べた所が、勿論海軍地の男兒の大部分は軍艦を飛行機ばかり描き、陸軍地の男兒は之に反してタンクを飛行機を専ら描いてゐました。所が女兒の方は何れもかうした種類のものを一切描いてゐません。そばで機關銃の音や飛行機の音がしてゐるのに全く無關心の様です。女兒は男兒でこんなにもちがふのにはおどろきました。普通男兒は女兒の描畫上の差異は明らかに認められて居られる通りでせうが、これ程は思はなかつたのでした。ついでに私が都會兒童(六歲)について調べた男女の描畫傾向の差異を御紹介します。男兒に多い傾向は、乗物・武器・旗・火・土木等の動的なものに限ら

れてゐましたし、女兒の方は、植物・家屋・人物・什器・食物なき靜的であると同時に家庭的な傾向をはつきり見せてゐたのにも、いきゝかおどろきました。

この様に個體の反應如何が環境を作り出してゐることも云へるので、大人によつては意外な事が子供に強く働きかける云ふ事も起つて來るわけです。それで子供に與へようとしたものが案外反撥されて失敗した経験もお有りな事と思ひます。繪の事でも例へば繪を描きたがらなかつたり、或物を描かせようとするさほかのものを描いてしまつたりして、なか／＼手のやける事です。それなら繪を描く云ふ事を子供は好まないか云ふことは云へないでせう。度々繪を描かせてゐる様な幼稚園では大抵の者は繪を描くのを好む様です。特に描かせなくても、描く機会を與へれば模倣によつて進んで描く様です。下町を通る路上には實に豊かな繪が描かれてゐるではありませんか。かう云ふ風に進んで描きたがる一方、なか／＼描きたがらない場合もあるのは御経験の事です。私が農村の兒童を集めて繪を描せようとした所が、みんな「カケネ」なご云つたり「オラ、エナンカキレ」なご云つてなかく應じません。それでも紙を前にしてしばらくしてゐます。幾分落著が出て來て、一人二人クレオンを紙にこすりつけたりする者が出て來ました。十分から十五分位たつて皆熱中して線をこねまわしてゐます。そして一度ばかり描いた

的な氣分が生れて來るゝ案外その惰性があこをひいて何枚も描く者が出て來ました。或下町の託兒所では月曜日にはいつも子供が落付がなくそわ／＼してゐるのに、繪を描かせた所がふだんよりすつ／＼下手な繪が出來上つてしまひましたが、落著いてゐる時には随分上手な繪が描けました。また歌やお話をした後の空想的な時もよいようでした。かうした例を見ますと、結局繪を描かせる前には何か繪を描きたくなる様な氣分を出す様にする必要が痛感されます。氣分を必要とするのは何も天才畫家に限つた事はないでせう。私の近親の幼兒は繪は下手で人の前ではなかなか描きたがりません。でも氣分のよい時には何かわからぬ様な歌をうたひながら、繪を描いてゐる事があります。繪の下手な事を一寸でも批評するゝもうだめです。それからこれは私の推測ですが、さうもクレオンと云ふものは繪の描始に持たせるには餘りに複雑で取扱ひにくいもの様に思はれます。ロー石ではとても元氣に描く兒童もクレオンではいさゝか勝手がちがふ様です。或幼兒は大人の親指大のある太いクレオンを與へられてよろこんで、縦に線を引きかう／＼したところがボキリとおれてしまひました。次ぎ／＼に續けざまに折つてしまひ第六本目でやつ／＼折れずに線を引きました。道具が意の如くあやつれない時には、それが爲に繪を描く事をさまたげる結果もなり得ないでせうか。また色そのものも始めは使分けが出來ません。

そして鉛筆があるをそれを使ひたがるのを見受けませう。描畫的な腕の操作の自信が或程度出來てからクレオンを持つ事がそんなに描畫を愛させる様にし得る事とせうか。こゝには特に保育内容が兒童の畫因となる場合の條件を考へてみませう。私が各所で調べた結果によるを、塗繪でやつた形式を非常によく活用する様です。そして貼繪や折紙になるを少し程度が下つて來、歌や紙芝居も或程度影響しますが、お話は一番影響が少なかつた様でした。つまり唯お話丈ですと、繪を描くのになんか形を作つてよいかかなかむづかしいものでせう。或る印象が單に視覺的に與へられた丈でなく觸覺的にも情緒的にも強く印象づけられた方が影響力が強いこゝは勿論推察出來る事とせう。或託兒所で鳥を見せてその印象を描かせた事がありました。が、その後之を續けて描く者がなかつたのに、或幼稚園では鳥に赤カブを植ゑ、それが大きくなつたのをみんなで少しづつ、お辨當の時食べたのが非常に兒童を喜ばせ、しばらくの間は、進んで鳥に赤カブの繪を描いてゐました。かう云ふ風にして、兒童畫を描きよ、好きな遊びにする事は、兒童の生活内容を豊に樂しくする爲に努力さる可きものと思つてゐます。以上は大體幼兒がどんな風な畫因を持つてゐるか、それが兒童の性質と環境の影響を多分に持つてゐる事から、さう云ふ風にしてそれらの條件を活用したら、よいか、と云ふ事について、述べて見ました。

萬葉に於て日本的感情を見る (八)

東京女子高等師範學校教授 石 井 庄 司

六、言葉と言繼

千萬の軍なりとも言舉せずさりて來ぬべき男も念ふ

卷六にある高橋連蟲磨の歌であります。天平四年八月に

藤原宇合卿(鎌足の孫)が、西海道節度使さいふ重い役目を帯びて任地に赴くさき贈つた歌の一つであります。長歌があつて、その反歌であります。一首の意味は、たさひ千萬の多數の軍勢であつても、彼此はせずさりに討ち取つて來るここの出來る頼もしい男子さ思ひますさいふやうな、所謂壯行會の心持で詠んだものであります。この歌の中にある「言舉せず」さいふのは、今申した通りの意味であります。また「さいふ」は言葉に出して言ふさいふのが「言舉」の本義であります。

卷十三にある柿本朝臣人麿歌集の歌さいふのによります

さ、「葦原の水穂の國は、神ながら言舉せぬ國」さあります。

日本の國は神代以來言舉をしない國であるさいふのであります。また同じ卷十三に「あきつしま倭の國は、神がらさ言

舉せぬ國」さ歌つてあります。しかし今は言舉をするさいふのが卷十三の歌の中に見えます。人麿歌集の歌には「數島の倭の國は言靈のたすくる國ぞまさきありこそ」さありまして、我が日本は言靈のたすけのある國さいふのであります。

言靈のたすけのある國であるが、しかし言舉をしないさいふのが大事なところさ思ひます。

古事記の中卷の日本武尊の御東征のこを記したところ

に、尊が歸路に伊吹山に御出でになつたこがであります。

尊は「この山の神は素手でさくに討ち取らう」さ仰つて、伊吹山にお入りになつたところ、麓で白い猪にお出逢になります。その猪の大きさは牛のやうであつたさいふこであります。

さ、その時、尊は言舉して仰せられるには「この白い猪は、伊吹山の神の使者であらう。かういふものは、今討ち取らなくても、歸りに取らう」さして、さん／＼登つていらつしやいました。ところがこれがよくなかつたのです。古

事記では註の形にして、「この白い猪になつてゐたものは、神の使ではなく、神御自身であつたのである。それが言擧をなさつたために、惑はされなすつたのである」と記してあります。「言擧」といふことは、日本書紀では「興言」とか「揚言」とか書いてありますが、大體この文字面の示すやうな意味であります。

さてわが日本の國は、神代以來、言擧をしない國であると思はれてゐるのであります。それはわが國風の尊い傳統であります。それが萬葉集の歌によつて十分うかがへるのであります。

ところが此處に、ちよつと見るに不思議に思ふやうなことがあります。一方では言擧をしないといふのが國風の純粹なものとしておきながら、また一方では「語り繼ぎ言ひ繼ぎ」といふことを重んずるのであります。勿論「言擧をしない國」であるが、言擧のさきは外國であるといへば、當然の事とも考へられませう。

山上憶良が病氣で臥牀のとき、藤原朝臣八束といふ人が河邊朝臣東人をして病狀を見舞はしめましたとき、憶良が涙を拭つて悲しみ嘆いて吟じたといふ歌があります。

士やも空しかるべき萬代に語り繼ぐべき名は立てずして
 「萬代の後までも語り傳へられるに足る功名も立てず、空しく此の世を終るべきであらうか」といふのであります。

また笠朝臣金村が鹽津山を越えるとき詠んだ歌が二首あります。

大夫の弓末振り起し射つる矢を後見む人は語り繼ぐかね
 鹽津山打ち越え行けば我が乗れる馬ぞつまづく家戀ふら
 しも

自分の武勳をいつまでも後世に語り繼いで欲しいといふのは、まことに武將たる人の面目のあらはれとして當然と思はれます。卷三の富士山を詠んだ歌の終にも「語りつぎ言ひ繼ぎ行かむ富士の高嶺は」となつて居ります。

松浦佐用姫の領巾を振つたといふことを詠んだ歌にも「萬代に語り繼げ」とこの嶽に領巾振りけらし松浦佐用姫」といふのがあります。これは後の人が佐用姫の心中を推察してのものであります。笠金村の歌も相通するものを感じるのであります。

「永き世の語に」といふやうな言葉がありまして、しつかりとお墓を造つて、「遠き代に語り繼がむ」といふ願つた歌もあります。(卷九、菟原處女の傳説歌)

更に轉じましては、ほごさぎすの聲を慕つて、さうか鳴いてほしいといふので

ほごさぎす今し來鳴かば萬代に語りつぐべくおもほゆる
 かも

といふ歌も傳へられてゐます。「萬代に語りつぐぞ」といふ

ここは、大きな名譽になつたことを思はせるのであります。

なほかういふ例があります。田邊史福麿たなべのふゆたけは左大臣橘家の使者として越中國に出かけました。この時の越中の國の守は大伴家持でありましたが、家持は福麿を國の守の館に招いて饗應し、歌を詠み合つて居ります。その中に、福麿は噂にだけ聞いてゐて、まだ見たことのない布勢の浦のよい景色を見ないでは何年たつても都へは歸るまいなごいふ歌を詠み、またかう申してゐます。

布勢ふせの浦を行きてし見てばももしきの大宮人に語り繼ぎてむ

布勢の浦のよい景色を行つて見たならば、奈良の京へ歸つてからは、宮中の方に「語り繼ぎてむ」といふのであります。この「て」は「つ」の未然形で、「む」といふ未來の「こ」の意味を強めてゐるのできつと語り繼いでやりませう」といふ程の意味になります。この場合の「語り繼ぎてむ」といふ言葉のひびきは随分強いものであります。そして、「語り繼ぐ」といふことが如何なる意義を持つてゐるかといふこともわかるのであります。

以上色々「語り繼ぐ」の用例を列挙してきましたが、次に申すのが一番この言葉の中心的なものかと思はれます。

さきほき山上憶良が病中に吟じたといふ歌を擧げましたが、後になつて、大伴家持がそれを慕つて、長歌を作つて

居ります。

勇士の名を振ふを慕ふ歌一首竝に短歌

ちちの實の父の尊、ははそばの母の尊、おほろかに心つくして、思ふらむその子なれやも、大夫や空しくあるべき、あづさ弓未振り起し、投矢なや持ちち千尋射渡し、劍太刀腰にはり佩き、あしひきの八峯踏み越え、さしまくる心さやらず、彼の代の語りつぐべく、名を立つべしも

反歌

大夫は名をし立つべし後の代に聞き繼ぐ人も語り繼ぐかね

長歌の大體の心持は、「父上や母上が、いゝ加減な心をつくし方で思つてゐて下さるやうなそんな子供ではあらうや、ある筈はない。男子おとこも生まれた以上何の爲すこともなく空しく暮らして居るべきであらうか、決してさうではない。あづさ弓を振り起し、投矢なやを持ち遠いところまで射渡し、劍や太刀をしつかり腰に帯びて、多くの山々を踏破し、任せられた仕事は滞りなく決行して、後の代永く語り繼ぐやうに名を擧げるべきである」といふやうな具合であります。

反歌では、この氣持を一層はつきり壓縮して詠んでありまして、「大夫たる以上は、名を立つべきである。後の代に聞き繼ぐ人も語り繼ぐであらうから」といふ意味であり

ます。名譽を重んずるこいふ武士道精神を端的に表現した作であると思ひます。

大伴家持にはまだ「族を嘯す歌」こいふのがありまして、大伴家の祖先以來の勳功を數々掲げてゐるのであります。餘り長いので原歌の掲載は止して、こゝで大體の意味を申し上げませう。

はじめは天孫降臨のころから説き起してありまして、天の岩戸を開いて、日向の高千穂の嶽に天降り遊ばされた皇祖瓊々杵尊の御代からはぐ弓を手に握りしめ、まかで矢を手挟み持ち、大久米部のますらを達を先登にして、鞆を背負ひ、山や河の岩を踏み破り通り、國を求めつゝ荒々しい神を討ち平らげ、服従しない者をやはらげ、掃き清めお仕へ申し上げて、わが大和の國の橿原の畝傍の宮に、御殿を立派に御造營になり、天下を御統治遊ばされた。その皇祖の御世繼ぎして續いて来る天皇の御代々々、隠すころのない明き心を以て、皇室に極めつくしてお仕へ申して来る所の、祖先以來の職務であるこ、特に言擧げしてお授け下さつた任務であるから、子孫の末々までも、見る人は語り繼ぎ、聞く人は手本にすべきであります。惜しむべき清きその名であるぞ。おろそかに祖先の名を斷絶させるな、大伴氏名に負つてゐる男子の方々の意味もあります。反歌は二首あります。

數島の日本の國に明らけき名に負ふ伴の緒心へこめよ
劍太刀つよく研ぐべしいにしへゆさやけく負いて來にし
その名ぞ

こあります。「見る人の語り繼ぎて、聞く人の鑑にせむを」こ云つて居ります。

人麿の歌にあらはれてゐるころは「言擧せぬ國」こいふ國柄が、一方では家持の歌なきによつて、語り繼ぎ言ひ繼ぐこを重大なここしてゐるのであります。この矛盾のやうな中に一入深い意味がこめられてゐるものと思はれます。こゝに我が國の精神が出てゐるのであります。ここばに就いての深い反省が見られます。言ふ必要のない時には言はない。しかし一度言へば必ず人を救ひ世を益すこいふものでなければならぬこいふこにもなりません。さういふこが既に萬葉の時代に考へられてゐたさ思はれるのであります。

十月の保育

生活訓練

倉橋惣三

久しぶりで會ふ幼児達。なつかしさに變りはないが、暫く會はない中にいろ／＼の變り方をしてゐる。見違へるようになり、^{たくま}遅し、色も黒く、一寸幼児はなれしたのもある。その反對に、すっかり色が褪めて、ひよろ／＼のへな／＼子になつてゐるものもある。殊に生活訓練の上から、大部くづれたと思はれることが多いが、さう氣になくてもいい。一旦懸けたこと、さう／＼素に歸するものでもない。生活環境が變つて、おのづと生活ぶりも變つただけの話で、幼稚園に來れば又もとの幼稚園の子になる。あせらずに。殊に、いけない／＼と極めつけないで、前保育期の折角の装を、もどつこなしにするような仕方をしてないで、だん／＼に信用して、もどに歸せばいい。きつと歸せもする。

それよりも、僅か一ヶ月といつても、此の年齢の子どもには可なりの發達時期であることを忘れないで、その變化を積極的に理解してゆくことが肝要である。幼稚園ばかりが教育の場所ではなく、家庭だつて、休み中だつて、立派に發達してゐる。そこを無

駄にさせないことこそ、第二保育期の生活訓練の——否、保育全體の要訣であらう。

おだてるのはよくない。しかし、引下げは尙よくない。どつちかといへば、あらゆる機會を引上げに利用すべきである。夏中ぞうした。それはよかつたねえ。山へ、よかつたのね。海へよかつたのね。家にゐたの、よかつたのね。その間の一つ／＼の經驗をもどに積み上げて、自分は第一保育期の幼児と同一にあらずと思はせることが必要である。

必要といふよりも、子どもらはさうなつてゐる。お休み／＼と、まるで、生活も發達も停止してゐたかのやうに扱ふのは最もよくない。自信をもたせること、自尊心をもたせることは、生活訓練の最大の任務である。保育期の新たに今年。實にその絶好の好機會である。

年少の組の子、此の四月始めて入園した子にとつて、此の休み中が與へた心の作用は殊に大きいものである。四月入園、幼稚園のお客様のやうな、新來者のやうな、どこまでも幼稚園が主で、自分がそこへはいつてゐるとだけ感じられる風が脱げない。いろいろのことで幼稚園の生活に慣れはしても、やつぱりわがものにし切れないであらう。

それが暫く幼稚園を離れてゐて、離れて幼稚園を眺めた。思つた。味つた。そこで、幼稚園がすっかり自分のものになつた。そ

の自分のものとして、大手を振つて登園も来るのが、第二保育期の心理である。

そこで、我ままにもならう。いたづらにもならう。おづ／＼してゐた子が平氣にもならう。平氣が過ぎて、圖々しく見えることもあらう。それは時とすると驚くばかりである、之れは單に精神の一ヶ月の發達の結果だけからではない。幼稚園と自分との關係がらの社會心理がある。先生は、呆れてゐるだけでなく、その意義をよく／＼解しなければならぬ。

そこで、簡單にいへば、かくてこそ始めて眞の幼稚園生活が始まるのである。眞の幼稚園生活が始まつてこそ、眞の幼稚園教育が始まり得るのである。第二保育期、特に新入園児に對する意義は深い。

一體、幼稚園にしても學校にしても、そこで教育をされる場所といふ風にのみ考へられてゐることが多いが、實は、子どもに、その生活を與へることが第一義なのである。家庭だけを我ものと思つてゐた子に、幼稚園を我ものと思はせ、それから學校を我ものと思はせ、それから社會を我ものと思はせ、それから園を我ものと思はせる。斯うしたことに深い意味があるのである。園を我ものと思ふとは、分に越えた心もちのようだが、この心もちあつて眞に園を愛する。つとめでなく、義務でなく、我が心抑へ難き愛である。幼稚園も幼児にとつてさうでありたい。

それにしても、いゝ十月ですね。秋熟す實りの季節に、幼児等

は元氣がはち切れる。はち切れる程の強さの中におののみ、眞の躰も訓練も出来る。曰く生活訓練、曰く躰、所謂おとなしくさせること許りではない。元氣にすることであり、活潑にさせることであり、勇敢にさせることである。抑えるばかりでなく彈力をつけ、控へさせるばかりでなく伸長させるのでなければならぬ。秋が子どもを充實させ伸展させる。人間の教育も、負けないで勢よくやらなければならぬ。積極の訓練、積極の躰。戦時下日本の天は高く晴れてゐる。

自由遊戯

上遠 文子

涼しい風が私達の氣持を引しめてくれます。あふれ出るお子さんの勢力を、私達のよき指導により、よりよき發達に導きませう。私共に平凡な、つまらぬ遊戯も、そのお子さんには又何かの好果をうるかもしれませぬ。一つ／＼誠意を持つて過しませう。

砂山くづし 否活潑的な遊びと申しませうか、御部室の前でぽつんとお友達なくたつてゐるお子さん達を砂場に誘つて、こんな事でもはじめたら動き出すのではないでせうか。お子さん達は銀砂と言つてゐますが、乾いた砂で棒を中心にさして山を作ります。さら／＼した銀砂の感觸は氣持のよいものです。

ジャンケンをして勝つたものよりその棒を倒さぬ様に砂を澤山とれるだけとります。次第に取つてゆくうちには棒のまはりの砂

は少くなるので其處に面白味が出てくるわけです。

倒した人はまげになります。

電車ごっこ

繩とびの紐が、今まで自分達が座つてゐた椅子が動き出して、電車になり汽車に變つてゐる。お子さん達の考案は私達を時に驚愕させ、時に感服させます。先日も貨物列車のつながらだと、御本でその連結區合をしております。成程よく感じが出ており、あのガチャ／＼と云ふ氣分でした。

普通紐を輪にして電車汽車にしてありますがその邊の工夫はお子さん達にまかせて、先づ、車掌さん運轉手さんを決めませう。男のお子さんは誰でも車掌さん、運轉手さんになりたいのですから、交替に致しませう。お庭の其處に、彼處に、停留場、驛を造り、交叉點の所には赤、青の旗を持つた信號する人もおもしろいでせう。手技の時、運轉手さんの首から何處行の札をさげたり、車掌さんの鞆や、切符を造つたり、するのにも楽しみの一つです。停留場や驛の名前はポール紙位の厚紙に紐をつけ木の枝に引つけておくだけでもよろしいでせう。年長組になると、尙一段とそこに工夫も出て來、傑作も出る事です。

紐の場合、お客様が多勢だと足のはこびが悪くなりますから、急行など出さぬ様、特に年少組には注意せぬばなりません。御部屋で椅子又は箱積木を利用した電車ごっこ、汽車ごっこには、動く事はありませんが、その他種種、お辨當賣、新聞賣など出て、面白く遊べます。

じゃんけん飛び

何人でも出来る遊びです。始め、飛ぶ距離を

きめておきます。あまり短かすぎても、又あまり遠すぎてもいけません。出發點の所へは線を引いておきます。じゃんけんをして、「グー」は十、「チョキ」は五つ、「パー」は二十、と數を決めておき、その數だけ大股の歩みでとんでゆきます。そして決められた距離までゆけば又もどり、早く出發點へついた方が勝になるわけです、歩幅が廣い方が得なわけですので、自らそこに體練され又、遊びながらにして數の練習も出來、よい遊びとしておすゝめ致したいものです。

帽子とり 國民學校でよくみかける遊びですが、幼稚園ではどうしませうかと考へてみました。じゃんけんして、赤白、又は勝負の組に分れます。何れも陣地なるものを作つておきます。勿論、帽子、又は手拭を頭に巻いておき敵の帽子を取る戦争です。勝どきと共に開戦。お互ひに帽子をとられまい、又どらうと追ひかけます。取られたものは敵の捕虜になり敵の陣地で味方に助けられるのをまつておませう。敵に味方のものが捕虜になつた時捕虜の帽子を取つた時は捕虜は助けられた事にしてみました。皆捕虜になつた時は勿論勝負となります。帽子を取る事は相當、荒い鬭争も起る事です。から、帽子にさわつたら取られた事にするといふ程度の契約をしておきたいものです。年少組には少しむづかしいので年長組にはその競技精神なるもの、理解する様、又お互ひに味方は助け合ひ、清き正しく勝負し合ふ精神を養ふ様、指導者は心掛けなければなりません。

今年のぼたん(鬼ごっこ)

今年のぼたんばよいぼたん、お耳をからげてすつぽんくももう一つおまげにすつぽんく

お子さん達も又私達も心地よい調子に、お隣の人と手を取り合つてしまひます。

何人でもよろしい。一人鬼になる人は何處かはなれた所にある。他の者は手を取あひ、

歌を歌ひつゝおもしろく遊んでゐる。

そこへ鬼が「入れて下さいな」、他者「いや」鬼「川へつれていつてあげるから入れて」他者「カッパが出るから嫌鬼」それぢやあ、海へつれていつてあげる」他者「海坊主が出るから嫌鬼」それぢやあ山へつれていつてあげる」他者「山坊主が出るから嫌鬼」家の前で天秤棒でぶつから」それでは入れてあげる」、そこで鬼も入れて今年のはたんは……と遊ぶ。途中鬼が「私もう歸るわ、他者」どうして」鬼「おひるの御飯だから」他者「おひるの御飯のおかず何に？」鬼「へび」他者「生きてるの？ 死んでゐるの？」鬼「生きてゐるの」

他者「ぢやさよなら」鬼「さよなら」と鬼が二三歩歸りかけると、皆んなで「誰かさんの後に蛇がある、誰かさんの後に蛇がある」鬼「私？」他者「ぢがふ」誰かさんの後に蛇がある」と二三回、同じ會話を繰返して後、「私？」と聞かれたら「さう」と答へ、鬼は追ひかけ、鬼ごっこになる。又つかまへられたらその人が鬼になるわけです。この遊びに、はさむ言葉に、又深く言へば思想に、何んなものかと思はれる節もあり、私も氣づかひつゝ致しております

が、それは言葉の節なのだ遊びの文句なのだと單なるものに考へればよろしいでせう。

あゝぶくたつた煮えたつた(鬼ごっこ)

鬼を中心に何人でも多勢でも結構です。手をつなぎ

あゝぶくたつた煮えたつた

煮えたかどうだが食べてみやう(たべる眞似をする)まだ煮えない。

反復して もう煮えた。

隣りのおばさん時計は何時？

夜中の十二時、おばさんのお名前なんといふの？ 柳の下の大

入道といひながら、おひかけ鬼ごっこになるのです。

何れも昔からつたわつてゐるもので皆様もよく御存知の事と存じます。或はその土地々々により言ひ方も異になるでせう。唯御記憶をよみがえらせるために加へました。

遊 戲

古澤 静子

遊戯や競技に絶好の季節。大いにはね、高らかに歌ひませう。今度は二人で組になるものをいたしました。共同動作になると責任重大になつて参ります。九月及十月むきのもの、五ツ六ツと出してみました。

「かけっこ」 繪本唱歌アキノマキ所載

隊形、圓形

「赤バウ、白バウ」 二呼間に一回、右(左手でお隣りの左(右)肩を軽くたたく、その動作を右左交互に行ふ。

「カケッコダ」 各自兩肘を曲げて腰にとり、駈足で自分の廻りを一廻りする。

「裏ノ畑アカケッコダ」 同様兩肘を曲げて腰にとりカケッコの用意をして、圓周に沿ひ、右へ二呼間に四歩づゝ駈足で駈ける。

カケッコであるから特に力を入れ、兩臂をよく振り、膝も高くあげて勇しく駈る。

「赤フレ白フレ」 全生圓心を向く

赤フレで二拍手、白フレで二回足ふみ。この動作を二度繰り返す。この應援は、皆一齊に聲を揃へて元氣よく、拍手と足踏みをする。

「ヒヨコ」 日本幼稚園協會發行 幼稚園唱歌選集所載。

隊形 ヒヨコ。一羽圓内に入る。

親ざり。全生連手して圓形を作る。

親ざりの動作。

「ヒヨコが庭でビョ〜〜〜ビョ〜〜〜」。全生、圓形のまゝ坐り、元氣よく歌ひながらリズムに合せて拍手する。

「ヒヨコの母さん」 優しい親鳥さんの大きな羽を擴げながら、即ち兩手を大きく伸ばして、横に擧げながら立ち上る。

「コッ〜〜」兩手を横に擧げたまゝ、軽く首を右左右と振る。「お腹がすいたとビョ〜〜〜ビョ〜〜〜」立つたまゝ、再び

リズムに合せて拍手する。

「御飯を食へよとコッ〜〜」右手をぐんと伸ばし、圓内で遊んでゐるヒヨコを招く。

ヒヨコの動作。

ヒヨコはその間、圓内で自由表現(例へば上體を前傾して兩手を後に伸ばし、踵をたたく歩いてヒヨコの動作をしたり、お腹がすいた時は、前かがみになつてお腹をおさへたり、兩臂を擴げてスキップでとんだり、又しやがんで餌を食へる等)に依り、好きな動作を行ひながらとび廻る。

そして「御飯を食へよとコッ〜〜」と招かれた時、都合のよい親ざりのところへ行き、一曲が済むまでの間に、そのとりと交代する。ヒヨコは一羽に限らず、二羽でも三羽でもよい。かうして何回もヒヨコは交代しながら面白く圓内を遊び廻る。

「ブランコ」 日本幼稚園協會發行 幼稚園唱歌選集所載。

隊形。A B二人で向き合ふ。

一、二節共、同じ動作。

「ごませう〜ブランコを」A Bの二人が仲よく向き合つて兩手をとり、片足を前出し、二呼間に一回づゝ、交互に上體を後に倒す。即ちAがBを後方に押すと共に、Bは兩足を固定したまゝ上體を後方に倒す。次にBが押してAが後倒する。と云ふ様に、この動作を交互に行ふ。AもBも、しつかりと兩足を地面にふんばつてゐないと、ブランコは壞れてしまひ、役に立たなくなる。

「遠くお山が見のえるまで」二人共、右手を握り、その手をぐんと

伸ばして車輪の様にくるくく廻る。遠くのお空やお山を見ながら。

「松ぼつくり」 日本幼稚園協會發行、幼稚園唱歌選集所載

隊形

A B形。の二人が向き合ふ。

「松ぼつくりが」—Aの動作、Bはそのまゝ立つてAの話を聞く。二呼間で兩掌をふくらまして合はせ、松ぼつくりを作り、次の二呼間、兩手を下ろして體側につける。

「あつたどさ」—Bの動作。Aはそのまゝ立つてBの物語りを聞く。BはAと同様の動作をして松ぼつくりを作る。

「高いお山に」—Aの動作、Bはそのまゝ。

高いくお山にありました。と云ふ様に、右手を二呼間にづゝと上に伸ばして高いお山を指さし、次の二呼間で手を下ろす。

「あつたどさ」—Bの動作。Aはそのまゝ。

Aと同じ動作を行ふ。

「ころくころくあつたどさ」二人共兩手を胸にとり、體を小さくして、一呼間に一歩づゝころく〜と後退する。但しあまり遠くへ行くと元の位置に戻れなくなつてしまふ。

「お猿が拾つて」二人共、「お猿が」で、しゃがんで兩手を横にとつて床を叩き、「拾つて」で拍手。

「食べたどさ」兩方から走り寄り、「サ」の時、兩手を伸ばして、AはBの、BはAの肩にのせる。

歌詞の通り可愛らしい動作である。はじめは、二人でお話をして

ゐる様に優しく。ころく〜轉るところは、軽く快からに行ひ度い。

「ウサギ」 日本幼稚園協會發行、幼稚園唱歌選集所載

隊形、同様二人向き合ふ。

「其寝してゐて龜さんに」 向き合つて腰を下ろし、兩手を枕にして靜かに目を閉じて休む。

「貰けた兎は何處にある」 二匹の位置交換を行ふ。しゃがんだまゝ、兩手を振り、二呼間に二歩づゝ歩いてAはBの位置にBはAの位置につく。

「月の御殿に」とんでつて」 再びA Bの位置交換。兩手を上に舉げて長い耳を出し、二呼間に一歩づゝ兩足とびで最初の位置に戻る。

「ヘッタンお餅をついてゐる」 Aはしゃがんで兩手を前に圓く伸ばして白を作る。

Bは兩手を高く振り上げ、力を入れてその白でお餅つきをする。二呼間に一度つくのであるが、一呼間目に杵を振り上げ、二呼間目に打ち下す様にする。四回つく事になる。

「兵隊ごっこ」 日本幼稚園協會發行、幼稚園唱歌選集所載

隊形。

全體をA組、B組に分ける。A組 B組

動作は一、二節共同じ。

「廣い野原に赤と白、兵隊ごっこだ」各組一列縦隊に並び左手を前に出して馬のたづなをとり、右手を上に乗けて指揮しながらスキップで前進。その時落ちない様にたづなをしつかり握り、右手

は高く振りかざす。正しく並び、隊伍を整へて前進する、二組の間隔を適當に保たなければいけない。

「トチチテタ」二組共、止まつて内側を向き、向き合つて銃を打つ。即ち、ねらひを定め兩手を揃へて前方に突き出す。

「チチチテタ」そのまゝしやがみ、「タ」の時に兩掌をバツと開く。

終始勇敢に、然し各組共、整つて前進し、又二組があまり入り亂れない様注意する。

観 察

清水光子

季節の果物

今を酬の秋の自然は澤山の果物を贈つて呉れる。以前は色とりどりの美しい果物が店先に山と積れた時であるけれど今はさう數に於いて豊かにといふわけにはゆかない代りに果物についての話題が何と豊かになつた事か、南方新領土の、種類にしても量にしても大きい豊かな産物の一つとして、身近かある果物を観て描いたり、切紙したりし乍ら子ども達と話し度い、そんな時見た事のない子どもも多いことだから繪があれは見えるのもよいだらう。又何かの機會に手に入つたらさつそく見せてやり度い。感謝の心持と一しよにといふことは斯ういふ時いつもいふまでもない事。菊池先生が誘導保育の項で書いていらした平面的な果物店にしては面白い。二三種類づゝ時々切案で果物を切り、お皿やかご

の中に入れたやうにはりつけてゆく。一寸だけ糊をつけて置いてすぐとれるやうに、あとで子ども達銘々の帖面にはりつけてもよいであらう。又立體的に粘土で作つても紙粘土で作つても面白いが實物とあまりかけ離れた大きさにしないでよくみて較べてするやうに導き度い。

稻、刈入れ

田植の頃からすつと見てゆける様な幼稚園であると本たうに稻も、作る勞苦もわかるわけであるが都會地だつたら中々機會がない。遠足など機會ある毎にこれが稻だといふことをよく見せる。そしてその稻は植えるのから取入れるまでどんなに苦勞があるかといふことを具體的によく話してきかせる。例へば廣い田圃の泥の中へ一束づゝ植えるのであること、暑い／＼夏、カン／＼日でのりの中に草を取つたり蟲をとつたりすること、など。殊更教訓的にだからお米を大切に——といふ話し方でなく具體的な話をしてきかせ度い。そしてそんな苦勞の揚句、よく出来たお米を前にしてのお百姓さんの喜びはどんなに大きいか、又自分達で作つたお米がこんなによく出来たのもみんな神様のお蔭だといつてお祭りすること、まづ神様に捧げ、召上つていたゞくのだといふことなどよく實つた黄金の波の前にして、刈入れてある所を前にして話してきかせ度い。

木の葉の紅葉

繻幼稚園の木の葉がほんの一晚のうちに紅葉してしまつたといふやうなこともあるこのごろ、毎朝落葉はきを子ども達と楽しんで

する。この木の葉もこんなに黄色になつたのね、する分散つた、きれいな赤い葉つ葉ね。など話して作らきれいな葉つばは集めて遊ぶ。地方によつてはする分木の葉遊びにいろ／＼工夫があるやうである、はつて模様をつくつたり、切つておもちゃを作つたり、布にたゞいて染めたりする。おまゝごとのごちさうにもならうしお皿にもなる。縦横にあそべる。その一方ぬりゑや切紙や寫生など、中でもきれいで形のいゝ葉をつかつてすることにする。

空

一年中で一番空のきれいなのは今ごろではないだらうか、それに遠足や運動會などで何かと空に關心をもつ機會も多い、今日は空を見ませうねといふのでなく、機會を捉へて空を見る。たゞ何と青い空なのでせうと言つて仰ぐだけでもいゝ、又ふと仰いだ空に形の面白い雲が浮んでゐるやうな時あの雲犬の顔のやうねなど話して見るのもいゝ、さういふことから次々に子どもは想像の世界に入つたり、又現實の世界に戻つたり、話し合ひ乍らみる。斯うした、觀察といふにはあまり淡いことのやうであるけどいゝことと思ふ。

菊

大岩先生の御指導でまことに小さい乍らおへやの前の箱鉢に菊が咲いた、小さくても香も高く、色も美しい。このごろのおへやの花瓶には菊をいつも活けて置く。高いが強すぎない香がお室にみちてゐることがある。いゝ香ね、と子どもと一しよにかいでみる。まゝごとのごちさうに、兵隊ごつこの勳章にといふ歌そのま

ま遊びに使つたり、寫生などの材料にする。この花が皇室の御紋章になつてゐることを話してきかせる。植物の中で分化の程度の高い花だといふことは保姆だけが知つてゐればよい。

談話

志村貞子

五郎さんと鬼 鳥を可愛がつてゐる五郎さんが或日釣りに行つて鬼につかまへられてしまひます。そこへ鳥が出てきて五郎さんなたすけ、五郎さんに、鬼の寶物の絲と刀を渡して、「鬼に追ひかけられたらこれを後の方に一つ々つおなげなさい」と教へます。五郎さんがぞん／＼逃げ出しますと、氣がついた鬼は風のやうに早く走つて追ひかけて來ました。すぐに追ひつかれさうになりましたので、五郎さんが、一筋の絲を後に向つて投げますと、忽ち大きな山が出來てしまひました。鬼が一生懸命山を登つてゐる間に、五郎さんは大分逃げましたけれどまたすぐに追ひつかれさうになりました。そこで刀をさつと後に投げますと、みる／＼中に大きな川になり、あたり一面霧でみえなくなつたので鬼はたうとう五郎さんを見失つてしまひ、五郎さんは無事にお家へ歸られたといふお話です。古事記の黄泉の國を云々するまでもなく、亦外國の童話をひくまでもなく、このお話はこのお話として面白いと思ひます。たゞ鬼への恐怖と興味で子供達を引きづることのないやうにしたいと思ひます。鬼と本當の鬼ごつこをした五郎さん

の氣丈夫さを何となく感じ、あゝよかつた、あゝ面白かつた、それによいのだと思ひます。

しかし逃げるのは意氣地がない、鬼を追ひかけて捕へるやうでなければ頼もしくないとおつしやる方はさうなさるのもよろしいでせう。しかしこれとそれとは自ら問題が別であります。

ねんねんねむの木 森の中の大きなねむの木に赤い帽子をかぶつたきつゝきが菓をつくつてゐて、いつもお晝すぎになると、「ねんねんねむの木、ねんねの木、ねんねにおいて、ねにおいて」とよい聲でうたひます、この歌をきくと、森の中の鳥の子や獸の子はみんなうと／＼とねむくなつてこのねむの木の下に集つてきます。するとねむの木は、つぼめた葉をそつとひらいてねむつてゐる子供達をすつかり吸ひこんでしまひ、その子供達はいつまでたつてもお家へ歸つて来ませんでした。或日のこと、蛇から、きつつきを貰かす方法を教へてもらつた子兔は、ねむいのながまんしてきつゝきのところへ出かけます。そしてきつゝきが帽子をぬいだ時に、「きつゝきさんの頭は眞黒黒の黒ん坊!!」と大きな聲でどなりますと、その聲にびつくりしてねむの木はつぼんだ葉を一度にばつと開きました。すると今まで中でねてゐた森の子供達もみんな一度に眼をさまして、すどん／＼と一度にとび下りてどんどんお家へ歸つたといふお話です。話す方の意のあるところによつて、種々内容を持たせることが出来ますが、どこまでも明るさを失はないやうに話したいものです、更にいへば歌に誘はれてお家へ歸ることが出来なくなることを強調して、そこに特別の意味

を持たせることがないやうに希みます。

石の白 何でも欲しいものが出る石の白を貰つた春子さんのお話です。春子さんはこれでお誕生日に甘味しいお汁粉を出してお友達に御馳走しました。お友達の夏子さんはこのお話を聞いて石白を借りてスープを出します。ところが借りる時に止め方を教へてもらはなかつたので、スープはどん／＼溢れ出て大困りをします。やつと春子さんを呼んできてとめてもらひました。船に積む鹽を出す爲に石白を借りた水夫さんも止め方を聞かずに急いで行つてしまひましたので鹽は何時まで止りません。「石白はまだ海の底でざく／＼と音を立てながらどん／＼鹽を吹いてゐます。海の水はその爲にあんなに鹽からくなつてしまひました」と結んであります。この結びはあまり唐突すぎて如何かと思ひます。こゝに結ぶ爲にこれまでお話をすゝめて来たといふ感じも致します。先生のお好み、或は幼児の喜ぶさうなものな、この石の白からいろいろ取り出して幼児と共に楽しみつゝ、楽しい氣持で、満たされた氣持でお話を終りたいと思ひます。

森の親子 秋の森の中のお話です。紅葉や銀杏の子供達はお母様から紅や黄のきれいな着物を着せていたといふ大喜びで、着物をかへない常緑樹の惡口を云つたりします。その中に寒い北風が吹くやうになると、威張つてゐた子供達は皆飛ばされてしまひ、常緑樹の親子だけが楽しいお正月を迎へたといふお話です。

始めの樹の親子の會話、落葉樹が吹き散らされる時の形容等に如何かと思はれる點がありますが、觀察話といふ觀點からみる時

手技

及川 ふみ

その一つの行き方としていろ／＼得るところがあると思ひます。たゞこの話のまゝでは落葉樹の運命を悲惨と感じさせたり、悪口を云つた報いと感じさせたりしないでもありません。この話から取材して、先生方の頭の中でもつと明るい構想を練つて、表現していただきたいと思ひます。更に、寒さに耐へてゆく常緑樹の姿、寒風にさらされてゐる落葉樹の枯木のやうな幹に、枝、春を迎へる新たな生命の躍動がこめられてゐること等も明るい、力強いお話として聞かせたいものです。

瘤取り爺さん 所謂音嘶の瘤取り爺さんです。たゞこゝで誠に嬉しいのは、鬼に瘤を取つてもらふのにわざと惜しい様子をするといふ技巧もなければ、まして、その瘤を翌日出かけて行つた悪いお爺さんにくつゝけるといつた勸善懲惡の結果に終らせてもゐないことです。

「ぼん」と面白かつたのね。明日の晩、又あそびませう。お爺さん、又いちつしやいよ、それでは何かお約束の爲、おあづかりませうね「何をあづけておかうかね」あ、この瘤がいゝ、この瘤がいゝと皆でウーンと瘤を引張りましたので瘤はきれいにどれてしまひました。「アハ、ハ、ハ」と皆は大笑ひ、お爺さんも大わらひ、「それぢや、さやうなら」と鬼の子は歸つてしまひました。お爺さんは、瘤がなくなつて顔がかるくなつたので大よろこび、急いで家へかへりました。

この朗らかな、愉快さをこのまゝの響を以て幼児の心に傳へたものです。

十月は心身鍛錬に一年中最もよい季節である。幼児たちの楽しむ運動會も、遠足もこの心身鍛錬の上から、その目的を充分にはたす様に今年は殊更にその計畫を慎重にしなければならぬ。

この月の手技も、その材料もこんなところから取つてみたいと思ふのである。

運動會

幼児たちの楽しみの頂上であつた運動會を主題として手技の材料を考へて見る。

これは粘土製作、紙仕事、いづれの方法によつてもよい。年少組、年長組によつて粘土製作をとり、或は紙仕事をとつてもよいし、又或は兩者入れまぜて作つてよい。時節柄會場の裝飾などは簡單にしておいて、幼児たちの運動會での活動の状況がよくあらはされるものがよい。幼児體操をしてゐるところであるとか、運動競争をしてゐるところであるとか、或は兵隊ゴツコの場面であるとか、こんなところに製作物の目標をおいて計畫をたて、見たい。細かい部分なあらはさないでたゞ競走をしてゐる人、兵隊ゴツコの兵隊さんなどは粘土で簡單に作ることにする。粘土も運動會の様にしばらく保育室の一隅に竝べておいて次々と製作を續けてゆく様な場合にはこわれがたい紙粘土がよい。泥粘土で作

ると乾くにつれておひくこわれていつも補ひばかりしてゐなければならぬことになる。

年長組の幼児であれば粘土製作でも勿論いろ／＼面白いものが出来るが、観察も細かになり、製作にも力が出来てゐるのであるから紙仕事として運動會の光景をあらはすとよい。紙仕事も勿論立體的に作るのであるが、高射砲、機關銃、大砲などホール紙で簡単に作り兵隊や戦車などは畫用紙、古端畫で作ることにする。

兵隊は平面の畫用紙に幼児たちに自由に畫かせて頭の上のところから二つ折に紙を打つて切りはなすと簡単な形のもので頭の上が輪になつて立體的に立たせる事が出来る。戦車、高射砲、大砲などの類は實物や、寫眞、繪などでの観察をもつて出来るだけ幼児たちに考へさせて作らせるとよい。勿論先生の方でも幼児以上これ等のものに對しての智識と、これに對しての製作上の自信とをもつてゐる事は云ふまでもない事である。

運動會の製作は粘土製作、或は紙仕事いづれの場合にしても、一組或は一かたまりの幼児たちの共同製作にするのが適當である。

遠足

遠足を題材として製作するには個人の携帶品としてごく簡単な望遠鏡、提かばんなどを作るとよい。望遠鏡は古葉書で適當のものが出来るであらうし、提かばんはホルルの空箱、ことに書籍の外箱など手頃でよい材料になる。

この外に遠足を主題としては乗つてゆく電車、汽車或はバスを

作るとか、遠足先の目的地にあつた風物を作るとか、或は途中で見たものを作るとか考へ出せば製作の材料になるものも澤山にあることである。

自然物おもちゃ

尙九月に引きつゞいて十月は自然物でおもちゃ作りの材料の澤山にある季節である。

遠足の先きでの木の實、草の實其他おもちゃの材料になるものと思ひがけなく手に入れることもある。幼稚園の庭、近くの公園などでもおもちゃの材料になるものは拾ひあつめておくことよい。材料によつて幼児と共に工夫して遊ぶとよい。

こゝに考へておかなくてはならない事はこの自然物おもちゃの材料を得る爲に、幼児たちの草木に對しての心持を正しく養ひなければならぬ事である。

ある年若き保姆さんの體驗談として伺つた事であるが、自然物おもちゃを作る爲に園庭の草木から材料をとつてゐたが、それ以來多くの幼児たちは幼稚園の樹木を大事にしなくなり枝をとり實をむしるといふ事になつたので大いに考へてゐるとのお話であつた。そんなことを伺つて自分でも反省した事であるが、幼児たちには或は草の花をむしり木の實をむしる様な傾向はある様である。その上先生の方までが自然物おもちゃの材料など、稱して幼稚園にある木の葉木の實をとつてゐるのを見るときには尙更にそんな氣があふられるかもしれない。そこで私共は考へて見たい。この幼児たちの自然物に對してとすればおこりやすいこの悪い習慣の

是正を自然物おもちゃを作る機会において正しく指導する最もよい機会を得たと考へて見たいのである。幼児と共に材料の集め方などについて幼児たちによく得心の出来る様に、或は又みだりに草木はおとりとるべきものでない事など實に適切に指導の出来る好機をのがしてはならないのである。

自然物おもちゃの取扱ひ方の場合においてのみでなくすべて手技製作の機会において様々の幼児の日常生活上の弊の場合をみのがしてならないのである。尙廣くは保育事項すべての項目と弊の問題はいつもはなれる事の出来ないものである事を痛切に考へさせられるのである。

誘導保育

菊池ふじの

動物園。秋は、殊に九月の末から十一月にかけては運動會や遠足などの行事が多く、じつくりと仕事に精出すといふ機会がどうしても少くなると思ひますが、それはそれで大いに結構なことです。その合間々々に前からの動物園をつとけて行きませう。先づこの度は古葉書利用に致しませう。年少組のことですから、型紙があつて、それを二つ折りにした古葉書へあて、描き、それを切り抜いて採色してゆくことに致します。かうすると、立てることに苦心は要りませぬ。二ツ折りにした古葉書へ型をあて、書くといふことは、子供にはなか／＼六ヶ敷いことで、最初から獨りて

出来る子は少いです。

象、カンガルー、豚、キリン、ラクダ、猿、虎、ライオン、熊、兎、龜、鶏、小鳥、小屋、餌入れ等を次々と拵へる。各児がこれだけのものを全部作つてもよいし、又一グループづゝ受持つて或數種を作り、各グループのな然るべく並べて動物園にしてもいい。又最後に持たせてかへす時各幼児のな大きな畫紙にでも動物園らしく並べ、各個人の動物園としてやることも、子供は大變に喜ぶのであります。

お部屋の動物園が出来たら、ホスターなどを幼児に作らせて幼稚園中に貼り、入場券を作つて各組に案内し、こゝに出来た動物園を見せて上げ、又見て貰ふことは子供達お互に取つて、どんなに嬉しいことであり、張り合ひのあることであるか分りませぬ、途中にいろ／＼の行事がはさまるにつけても、組全體を引つぱつてゆく熱意が、保母には絶體に必要であることを痛感いたしました。

この月は、運動會の月であり遠足の月でありますから、一方に以上の動物園を繼續してゆくと同時に、その合間々々に粘土や厚紙で作つてゆける運動會を主題としたもの、又は遠足を主題とした小誘導保育を試みることは、大變にいゝことだと思ひます。

繪本唱歌に於ける拍手とリズムに就いて

みどり會音樂研究部

弘田龍太郎先生

御指導

最近幼児の音楽が一層重要視されて参りました折柄、こゝに改めて幼児の唱つて居ります唱歌の拍子、リズム等に就いて振り返つて見たいと存じます。

さて幼児の唱歌は「お手々つないで」「夕やけ小やけ」等をはじめとして數へ切れないう程ありますが、幼稚園に於いて最も多く且つ廣く使はれてゐるのは繪本唱歌だと存じます。それで、この繪本唱歌をその代表として取り上げ、四冊四十曲を通じて拍子及びリズムに就いて種々分類致しましたところを述べさせて頂きます。

一、拍子に就いて

春の巻に於いて

四分の二拍子——九曲

テフテフ。タンボゴ。ママゴト。アカチ

ヤン。マリナゲ。オヤツ。エンソク。オニゴツコ。ジドウシヤ。

四分の三拍子——一曲

コヒノボリ。

夏の巻に於いて

四分の二拍子——九曲

オヒサマ。チューリップ。キンギョ。ア

サガホ。カミナリサマ。ミヅアソビ。スナ

アソビ。オウマ。ナミ。

四分の四拍子——一曲

テンノウヘイカ。

秋の巻に於いて

四分の二拍子——八曲

ダルマサン。ウサギ。カケツコ。オヤス

ミ。プランコ。オミヤゲ。ナハトビ。タン

ジャウビ。

四分の三拍子——一曲

オツキサマ

四分の四拍子——一曲

ヒヨコ

冬の巻に於いて

四分の二拍子——五曲

ユキ。オカアサマ。ピアノ(前半)。オサ

ル。オヒサマ。マママキ。ギツコンバツタ

ン。

四分の三拍子——一曲

ツミキ

四分の四拍子——一・五曲

ピアノ(後半)。ユメ。

拍子	楽曲數	%
四分の二拍子	三二・五曲	八一・三五%
四分の四拍子	三・五曲	八・七五%
四分の三拍子	三曲	七・五%
八分の四拍子	一曲	二・五%

八分の四拍子——一曲

オンヤウグワツ。

以上をまとめて見ると次の様になります。

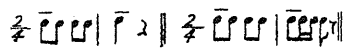
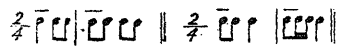
表を見てもわかります様に、結局幼児には四分の二拍子が最も適してゐると思はれます。

二、リズムに就いて

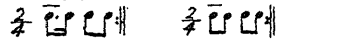
一定のリズムは明瞭な拍子が先づ決められてから表れます。而して拍子を最もよく確定するには二小節を満たす事でありま

四分の二拍子

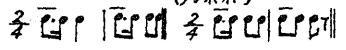
(テフテフ)



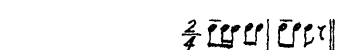
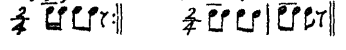
(エシツク)



(クボボ)



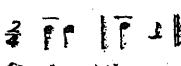
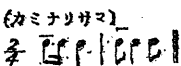
(ママゴ)



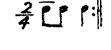
(一) 四分の二拍子
アカチヤン、スナアソビ、ダルマサン
ブランコ、ユキ、
オカアサマ、ピアン
(前半) キツコン
バツメン、オヒオサマには異つた
リズムが無くて、

す。従つてこの繪本唱歌のリズムの研究も二小節を取つて致しました。
こゝに拍子別によるリズムを拾つて見ませう。

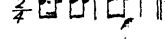
結局繪本唱歌に於ける四分の二拍子のリズムは以上五十九種であります。



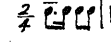
(キユ-リップ)



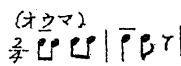
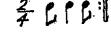
(オヤツ)



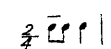
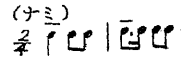
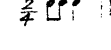
(キンキヨ)



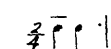
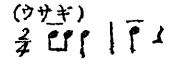
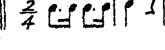
(ジドクシヤ)



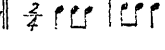
(アサガホ)



(オニゴツコ)



(オヒサマ)



(テシウヘイカ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(ピア) 後半)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(二) 四分の四拍子

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(オハトビ) (カケッコ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(タンジヤウビ) (オヤスミ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(マママキ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(オサル)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

其の中 屢々用ひられてゐるリズムを上に擧げて見ませう。以上のリズムが比較的多くの曲中に含まれ、且つ屢々用ひられて居ります。

(基本的なりリズムは次の通りであります)。

(オシヤウグワツ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(四) 八分の四拍子

(コヒノホリ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(オウキキサマ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(三) 四分の三拍子

以上十五種であります。

(ヒヨコ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

(ユメ)

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

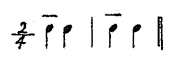
♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩

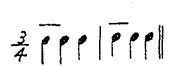
以上四種であります。リズムは常に時間的關係でありませんが、之には必ず強部と弱部とを生じます、この二つが結合して、リズムを一層明瞭にします。

ツミキには異れるリズムなく、以上六種であります。

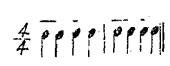
(四分の二拍子)



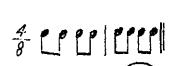
(四分の三拍子)



(四分の四拍子)

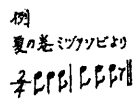


(八分の四拍子)



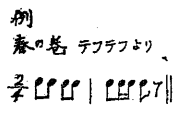
(強部
中強部
弱部)
て記す)

の時
は強
部が
移動
します。



(強部—中強部—に記す)

然し樂曲にては必ずいつも基本的なりズムばかりで出来ては居ません。この中の一つの音が、二つに、又は夫れ以上分れ、又は二つ又は三つ四つ集つて一つの音となり、或は音符が休止符に變つたり等して、種々なリズムを生ずるのであります。例へば弱部の音が二つに分れた場合はその始めの音に、小さい強部を生じます、一々くわしく言へばむづかしくなり
ますので、二拍子は強弱＝強弱＝強弱といふ原則でゆきま
す。
三拍子は強弱弱＝強弱弱
ですので小節始めの強だけ
に重きを置き四拍子は強・弱・中強・弱です
ので強・○中強○だけにします、又切分音



此の様に強部及び弱部よりなるリズムも樂曲の内容が美しいものやはらかいもの、或は情味のあるものには、其のリズム的に失する事は避け、曲の内容にしたがつて演奏されるべきであります。その際に表れたりリズムには強部、弱部の關係が明瞭でなくとも、その底には常に此の強弱の關係が流れてゐる。然し舞曲、行進曲の様になりリズムが明瞭であつて始めて其の曲の内容が發揮できるものは勿論明瞭に演奏されるべきで、この様な曲は、リズム的な曲と云ひます。唱歌にても舞曲行進曲と同様に明瞭なりリズムをするものがあります。これは快活なものや喜ぶ幼兒の唱歌に最も多く表れて來ますのは全く自然な事でありませう。こゝに於てリズムは明瞭に表はされねばなりません。

以上述べました様に、幼稚園に於けるリズムは、他の曲を見ても大體この範圍のものが用ひられて居る様であります。故に私共が作曲をする場合、又は教材を選ぶ時にも以上の事を考慮し、是等以外のより難しいリズムは避ける方がよいと存じます。又、リズム遊びの如きリズムの指導の場合も同様で、むづかしいもの、又、幼兒に適さないリズムは用ひない方がよいと存じます。リズムは音樂の重要な要素であります。故にこの實際的の、表現法、又、リズムのつ内容の研究 是等は私共保育の任に當る者の、大いに研究すべき問題であると思ひます。大いにこれを研究し、充分な自信と實力とを持つて幼兒を指導して参り度いので御座居ます。こゝに於て以上の述べました拙い發表が、諸師の御研究の上に少しでもお役に立つなら無上の光榮と存じます。

各地幼稚園だより

大連市 譚家屯幼稚園

小山田 節

- 一、所在地 關東州大連市光明臺二十七番地
 - 一、創立 昭和九年四月十五日
 - 一、設立認可 昭和十年五月三十一日
 - 一、現在籍 幼兒數、百五十九名
 - 一、保姆數 五名 園長兼保姆一名 保姆三名 保姆助手一名 園婦一名
 - 一、經費豫算 七千二百五十五圓也
 - 一、組數 四組 二年保育二組 一年保育二組
 - 一、設立關係 大連市住宅街、菖蒲町區千草町區早苗町區葦町區馬町區内の有志に依り財團法人幼稚園協會を組織同會理事長一名理事四名、常務理事一名、評議員若干名役員を以て毎年一回會合所管せり
 - 一、維持の方法
- (イ)五區よりの補助金

(ロ)大連市役所よりの補助金

(ハ)保育料及入園料(保育料一ヶ月二圓五十錢也、入園料二圓也)

(ニ)母の會の助成金(母の會費一ヶ月五十錢)

一、保育の目標を明瞭に

唯家庭教育を補ふと云ふ廣い範圍でなく、左の如く目標を立て、保育の主義も方針も内容も此目標に向つて進んで參つて居ります。

(一)健康保育に 氣候風土生活様式共に祖國と異なる地に生ひ立つ幼兒に適當せる保育をなし大陸的な健康の基を作らなければと心掛けつゝあります。

(二)日本國民としての魂の保育を 二千六百有餘年來つながら日本民族の血の流れを魂の中に打ち込むべき即ち三つ兒の魂の保育を致したい。祖國の古き傳統と其背景に乏しい此大陸としては一層の努力指導者の燃ゆるが如き愛國心を持ちつゝ、培ひ育てたいのであります。

(三)立派な躰けの保育に重きを置いて居ります。大東亞の建設世界の新秩序を確立の爲には民族共和的指導者としての心の躰けこそ幼兒の保育の第一歩に於て致したいと念願致して居ります。

日本人の子供國家を主としたる躰け
家庭の子供としての躰け
社會の子供としての躰け

是等はほど幼児の生活保育の中に於て不知不識の内に於て指導致したいと思ふのであります。

(四)家庭教育の指導を致して居ります。毎月一回六日國母陛下御誕生日六の日を定例母會としてお母様方に來園を定め密接なる聯絡を致して居ります。

當地に新しく生活せらるゝ家庭生活には比較的に缺陷がある様に思はれる。

老人の勤い家庭、親族縁者のゆかしい交りに足らぬ處も多いが祖先をうやまひ眞實なる心の生活と云ふ事に重きを置きつつ指導の内容を考へて居ります。

(五)社會教育との聯絡の爲には、社會事業協會、母性聯盟、兒童文化協會奉公班隣り組と相協力の事に致して居ります。

(六)保育の内容については、園内には大神宮様をまつり全幼児保姆禮拜に日々の保育生活の中心を置いて居ります。冬期室内生活の多い當地に於ては出来る範圍内に於て戶外生活保育に重きを置き、新鮮なる空氣、日光、土に親しむ事出来る限り取り入れて居ります。

自然に親しむ機會を多く取り入るゝ事は冬の生活を補ふ爲にも健康の爲にも大切だと思ひます。出来るだけ日々の天候に依つて保育案は實行致して居ります。

(七)保育の實際は質實簡易を旨として、何處までも簡易幼稚園であります。大東亞戰時下に於てのみならず戰爭以前に於て心掛けつゝ實行致して來ましたのであります。

(八)日々の保育について、當園の徽章は海の日出であります。

朝日ののぼる勢ひ、さしのぼる朝の日の如く爽かに生ひ立つ幼児の心、延び行く御園の寶をすくゝと太陽の昇るが如く育て行く、私共の心には明治天皇様の御製を

さしのぼる朝日の如くさはやかに

もたまほしきは心なりけり

此お歌を保姆の心として明朗に心掛け得べく修養訓として居ります。

登園せる幼児達は先づお神様をおがみ、辨當を所定の場所に置き直に思ひくゝの遊びに入るのであります。自ら蒔いた花壇、野菜などに如露で水をやる幼児もあり、兵隊ごっこ、ブランコ、ジャングルに上る者、砂場はいつも最も楽しく朝の保育室で繪本を熱心に見入る幼児もある。藤は恰よい日蔭になつて、手觸りよい砂遊びに時の過ぐるのも忘れしむ。園庭には連翹、ライラック、海棠、林檎の花も散りイチハツはまた少し咲き残り、チュウリップが咲いた後の實をつけたのも幼児はおもしろいものに實間の材料となる薔薇が澤山花を持つた、見事に咲き揃ふのも近いであらう。蜜蜂は飛んで來る。お玉じやくしが生れるのは雨の後の楽しみで、可愛いバッタが庭の雜草に生れる。兔に草を食へさせる幼児、紅葉の木が木登りに恰よよろしいのいつでも誰かとのぼつてる。堂々たる建物ではない私共の幼稚園も豊富なる自然を持つ幸福つくゝ有難いと思ふ。

十時近くなるとお片づけが誰かの口から叫ばれ、て整頓して

國旗臺のお山の前に集ります。

宮城遙拜、黙禱の後幼児體操、(ハトホットの體操)を致しますが、其日の天候によつて變る事は度々であります。

お山登りに行く幼児、散歩に出かける組、室内遊戯の組もあり、又全體同時にお嘸しや紙芝居を見る事もある。

お食事、おうがひの後、靜かな子守歌に靜肅にし(一分位)兵隊さん有難う頂きますの後晝食、食後は暫く靜かに繪本畫報など見る事になつて居ります。

午後は靜かな分團保育がとゞき、二時にはお片づけを繰り返して全幼児集合後お歸りと致して居ります。

保育の課程は保育の記録に重きを置き、細い案は立てずに其日其日のお日様に御相談申上ぐる日が多いのであります。

殊に當地の天候は四月は塵埃蒙古風の日が多く戸外遊びが思ふ様に出来る日が少いのであります。

入園當初の幼児は冬の生活から戸外生活に入る最初であります爲に、注意深く徐々に戸外生活に移らないと病氣になるのであります。温室の花を出す場合の如くであります。

六月から七月にかけて幼児の出席が悪くなります。是は、強い強い日光に弱い幼児は負けるのであります。

木蔭にて日光の直接にあたる事のない様に戸外保育の注意を要するのであります。

七月から海岸保育を始めますが十四時頃までに歸宅して午睡を出来るだけ實行致させて居ります。



一ヶ年の保育の内容は行事について大體の事が分かつて頂けると存じますので省略致します。

(九)園の歴史と個人の事について 明治大正昭和の御代を通じて幼児保育の事に御奉公させて頂きました、足らぬ身を恥じながらも終始一貫して参りました事は幼児保育の發達の念願のみでありました。滿洲の野に細々ながら種子を蒔きました園は、三十年の歴史を経ました。根は張つて参りましたが園丁の力足らざるを申譯なく存じます。

最後の御奉公としてほんの隣組式の幼稚園をお世話申上て最早又八年を過しました、感慨無量なるをおぼえます。

大陸の一角としての滿洲五族共和の滿洲の保育事業の爲に、日々の保育の爲に、關東州保育會の事業の發展に盡すべき事の日も足らぬを感じます。

私個人の幼稚園ではありません、御國の幼稚園であります、町の幼稚園であります。

相共に何處の園も一致團結して進みたい願ひで一ぱいでありませす。

一、當園行事(十六年度、實施のもの、四大節祝祭日等毎年同一に行はるゝものは省く)

四 月 本年度入園兒保護者懇談會、入園式、國民學校一年擔任諸先生及保姆との懇談會、靖國神社臨時大祭と祈念式
今年度新入母會幹事會

五月 六月 七月 八月 九月 十月

お花見遠足、天長節を期して紀元二千六百年記念國旗掲揚竣工式を揚ぐ(神宮の修祓に始り嚴かに行はる)

星ヶ浦海岸に全幼兒お母さん遠足會

保姆軍艦便乘(大連より旅順迄)

國民學校運動會全幼兒參加

兒童愛護週間の催し幼兒大會

(市内十三箇所の幼稚園兒と母共に旗行列神社參拜)

麻診流行期に入る、身體検査 園兒二十四名罹病

東京佐々木先生の音感教育講習會始まる保姆出講

園兒一名腸炎にて突然逝去

幼兒と共に園庭の花を贈り葬儀に列したり追悼の情に堪へず

星ヶ浦海岸保育を始む(暑中休み迄お休み中一日、十五日の兩日、幼兒來園お断し會をなす。)

幼兒一錢貯金獻金を満日新聞に持參

母の會開催(幼兒健康増進問題について星ヶ浦、奥

井農園遠足(母と幼兒)林檎は枝もたわゝにみのる、

ブドウサツマ芋、豚など育ち、お馬に幼兒は喜ぶ。

幼兒身體検査

老虎灘へ遠足、稻穂實る(母と幼兒)旅順女子師範生

徒五十名參觀せらる。

母會開催(下駄の鼻緒作り指導)

不用品交換會開催

(大小スケート靴、運動靴、衣類洋服、家具皆さんに大變喜ばれたり、夏期今一回開催を約す)

勅語下賜記念日の催し、市内全保姆大連神社参拜後緑山に秋色を楽しむ。

十一月
羽衣高女講堂に於て「お母さん大會」を開催募集せらるお母さんは千名を越ゆるの盛會であつた、幼児の歌、樂隊、仕舞、可愛いピアノ、童踊、人形芝居等にてお母さんを喜ばせ、お母さんの間の講演、席上にて幼児保育標語の募集をなす。

十二月
七五三のお祝ひと母の會、大連神社参拜祈願をなす。

恐れ多くも宣戰の大詔をラヂオを通じて幼児と共に奉拜し直に神社に参拜赤誠を誓ひ奉る。

同情週間、恵まれざる幼児達に一錢貯金を集めて贈る(新聞社に依頼す)

皇太子殿下御降誕奉祝式、遊戯會の後、大連神社祈願式に参拜せり。

當日年末の贈りものを節約して國防獻金をなしたり、

一月
ゾフテリア流行の爲、第二回目豫防注射をなす。

二月
新嘉坡陷落 奉祝参拜(母と子と共に)

三月
第二十七回陸軍記念日式後 國民學校一年

臺北市私立錦幼稚園

竹下ヲル

創設 本園は昭和五年三月一日創設の私立錦幼稚園と改稱し、殖民地に於ける幼児の心性情習慣等の圓滿なる發達を計り、國民性の涵養につとめ、兼ねて家庭教育を補ひ我國風を培養舒助長せんが爲めに設立し、昭和六年度よりは本島人幼児をも入園を許可し、同化の趣旨を徹底せしめんことを期してゐます。

位置 當幼稚園は、市の南郊、現今盛に發展しつつある方面に位置し、廣い道路を隔て、東洋一をほこる臺北高等學校の建物と向ひ合ひ、近くには臺北帝大を初め多くの學校所在し、居住の方は東京其他の内地より直渡臺が多く、園児達もこの學園地に育てられ、自ら好學心をそつてゐます。

かく環境が新鮮なる風物に親しまれ、三四十間にて青田もあり青毛氈を敷いた様な、高校の廣い運動場もありまして、誠に自然に恵まれた位置であります。

園児數 園児數は、創立當初は四十名二組編成のところ、後八名となし本年は百二十名三組編成の變更申請中であります。内、本島人が今年には十名もあり多くは言語住居其他内地化した知識階級であります。尙入園希望殺到しますが、收容力が乏しいので断つて居る有様であります。職員は園長一主事一保姆三名で保育料

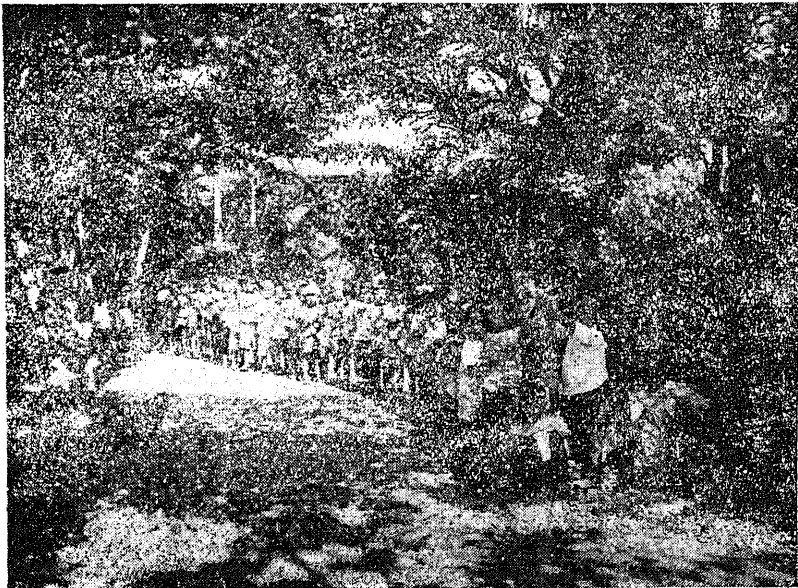
三園外に市より僅かの補助金があります。

初め錦町御園村にかり住ひなりした、何かと不便の點多く、昭和十年一月現在のところに、新築移轉したのであります。既に細霜移りて八ヶ年、この間支那事變は大東亞戰となりて實に驚歎すべき大戦果をあげ、世界に誇つた米英も歴倒的勝利の前には、最早彼等も東洋より撤退どころか、正に崩壊の一步手前に置かれて居る状態で、従つて吾々帝國臣民としては、大に自覺發奮すべきであります。

園庭には、一木一石にも心をこめ、臺灣特有のピンロー、ヤシ、ユーカリ、想思樹など、縁滴たりて涼しさを感ぜしめ、一部には内地の柘櫻やとり／＼の花も咲き亂れ、多くの果樹も植ゑつけ、今は四季を通じて果實ふさ／＼と色づけるのは見るから感じよいものがあります。又あちらこちらの緑深い木かげには、江り臺、ブランコ、シーソー、砂遊場、太鼓橋、其他運動用具も一通り設備され、園児達は常夏の暑さを忘れて嬉々として遊び戯れ、盛夏にはプールもありて水遊びに餘念なく楽しむのであります。

園舎 園舎は園長住宅と稼續きに建てられ、家庭の延長とも云ふべく、家庭的に保育され便利な點もあります。周圍が住宅地の關係上、朝は登園早く、いつも私自ら門がわに待ち楽しく迎へ入れるのであります。

保育 保育状況の一端紹介としては、尊皇心國家心の練成に最も精魂を注ぎ、先づ全員集合して朝の禮に始まり、宮城進拜もこの頃は充分慣れて、涙ぐましい程嚴肅に態度が整ひ、國歌奉唱のと



きはさずが皇國の幼兒だと末頼母しく思はせられます。時局材料層材料もよく研究して取入れ、日々の保育科目と連係し、日本精神を昂揚し大東亞の指導者となりて、將來の帝國を擔つて立つ、強い第二の國民を育成する熱意から總ての保育の仕事が産み出され活用されるのであります。

唯今大東亞建設の聖戰途中でありまして、幼兒として相應はしい芽生を培ひこの輝かしい國運發展と、臺灣の重い任務たる南進基地の使命を果し得る心構へを養ひたいと心がけてゐます。

其の他自然物を生すことに苦心致し、日々園兒たちは庭の木かげで楽しく遊んでゐますが、何といつても時局むき兵隊ごつこが盛であります。常に皇軍に對して感謝の念を深からしめ、その一端として病院慰問竝に一品持寄慰問袋製作遺家族見舞も致して居ます。

母の會 このかげにありて援けて頂いてゐる當園の母之會は、臺北で最初に出來た會であります。その會の事業としては、講演會、講習會、料理法、見學、皇軍慰問、園兒(母共)の會食等、なごやかな一日を送るうちに、言ひ知れぬ雰圍氣の親しみが結ばれるのであります。

幼稚園唱歌選集 第二輯 定價壹圓

この夏、遊戯の講習の時に使用したものでございます。あの折、大勢の方からお申込をいたゞきながら、品不足の爲お断りを申し上げましたが、この程再印刷が出来ました。筆記代用ですが御入用の方は前金にて本會宛てお申込み下さい。御参考までに左に目次を掲げます。

- 1、靴が鳴る
- 2、夕焼小焼
- 3、ゆりかこの歌
- 4、南京玉
- 5、てるてる坊主
- 6、オニサンコチラ
- 7、キキマセウ
- 8、オウマ
- 9、キンヤポッポ
- 10、セミトリアソビ
- 11、サクラサクラ
- 12、ウサギ
- 13、オ母サン
- 14、ズイズイズッコロパン
- 15、オフネ
- 16、幼稚園のお庭
- 17、進軍遊び
- 18、すゞめのお宿
- 19、手毬探し
- 20、皆さん明日また
- 21、砂のトンネル
- 22、わたしばのせんどうさん
- 23、チュウリップ
- 24、モミヂ
- 25、タナバタサマ

昭和十七年九月

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町三五
東京女高師附屬幼稚園内
振替口座 東京一七二六六

兒童心理學 (第七講)

牛 島 義 友

劣等感

子供の感情生活の中で最も力強く作用し、子供の性格の基礎となるものは劣等感である。人間の根本的な要求は何であらうか考へる事は相當興味ある問題で或は食欲を或は性欲を最も強い要求とし、フロイドの精神分析は性欲を第一として考察してをるものである。併し吾々の日常生活を反省しても、又小兒の生活を見ても性欲を第一義にする事は納得出来ない節が澤山ある。それでアドラーは力に對する要求、人の上に立ちたい、人に負けたくないこの要求が根源的なものだと言つた。人の上に立つ、偉くなる言

ふ考へ方は今日感心出来ない態度だと言はれるけれども、斯かる要求が各人の心の奥に強く働いてをる事は否定出来ない。何も立身しなくてもよいが、矢張り自分の仕事が第一流の事業や研究になる事を望み、自分の子供は偉くなる事を、自分自身も他人さちがつた特色のある者になる事を

望む要求は誰の心にも強いものと言へよう。而して斯かる要求は年少の者程強く、修養の積んだ人或は諦め切る様になつた大人には弱くなるであらう。この要求が凡ての心に満足されて居るならば問題はないが、併し殆んご凡ての人にさつてこの要求は満されてゐない。或人は健康に恵まれず、或人は經濟的に苦しみ、或人は智能に恵まれなからう。又外部から見れば三拍子揃つた様な人でも、當人になればより恵まれた人さ比較して尙ほ不満を持つて居るであらう。斯かる他人に比して自分が劣つて居るこの感じを劣等感と言ふ。

子供の場合、この劣等感が特に強いものさなつてをり、而も其劣等感の原因は主に身體的なものである。子供の遊びの生活では未だ金力も智力も餘りものを言はず、一番大切なものは體力である。誰よりも強い體力、誰よりも早い走る力、誰よりも上手にやれる器用さ、が一番ものを言ふので、この點に恵まれない子供は遊び仲間では何時も敗殘

者になつてしまふ。體が小さいか病身である事が既に大きな劣等感の原因になる。更に體が不具である様な場合は劣等感は最大なる。不具は子供にまつては最も不幸な事である。少し大きな子供になるに頭がよくない事、顔が不器量だとか、髪の色が赤いとかちやぶれてる事も原因になり、又家が貧困である、親がゐない等の社會經濟的なものも原因となる。

斯かる劣等感を持つた子供は何よりも先づこの缺點をかくさうと努力する。出来るなら自分でも忘れてしまひ度いが、そんな事は出来ず、何かにつけてこの點が意識される。故に斯かる子供に對して其缺點を衝く事は致命的なものとなる。親切な先生もこの爲に信頼を失つてしまふし、友達からこの點を衝かれると興奮し、さめざめなく憤慨してしまふ。先づ斯かる劣等感を持つた人の共通の性質を眺めてみよう。

1、批評に敏感 自己の弱點を批判される事は言ふまでもなく、一般に批評される事を厭やがる。親切な注意も斯かる子供に對しては餘程心してなされねばならぬ。

2、關係妄想 凡ての批評が皆自分に關係ある様に思つてしまふ。他人の事を言つて居ても自分に對して諷してゐるのではないかと思つたり、通りがかりにふさ耳にした様な噂でも自分に關係があるのではないかと思つてしまふ。

3、排他的 斯かる人は他の人を容易に自分の世界に招き入れない、斯かる人は人から離れて自分一人でゐる時が最も安全感を感じる。人々交つたり、話をする事も苦痛である。道を歩いてゐて、遠方に知人の姿を見るにふさ脇道にそれたりする。

4、おだてられ易い 内心に自信がないので少しほめられたり、詔はれるにすぐ好い氣になつてしまふ點もある。

5、競争を避ける 彼は負ける事にこり／＼してゐる。勝てぬに判つてゐる勝負には一切手を出さない、唯勝つ見込のある時にしか競争しない。一般に斯かる人は何か一つ得意なものを持つてゐて、それだけで競争しようとする。

6、他人を誹謗する 困つた事ではあるが、他人の失敗を見るに自分の劣等感が救はれた様な氣がする。それで他人の不幸を喜んだり相手に少し缺點があるに、ひさく誹謗したりする。

以上の諸性質は一言で言へばひねくれた性質であるが、斯く素直でなくひねくれたり、ひがんでゐる事が主な特徴である。

この劣等感の原因になつて「困つた子供」になる場合も屢々ある。斯かるひがみ切つて小さくなつてゐる事は彼等には決して愉快な事でないのは言ふまでもない、従がつて何かの隙間を見付けては大いに鬱憤を晴し度い要求にかられ

かる劣等感から奮起した特殊な努力、補償作用が大きな働きをもつてをることも考へられる。

下の子供さばかり遊んだり、女の子をいじめて強がつてみたりする。或は家庭の中で強がる内辨慶にもなる。或は更に反抗的になり悪意のいたずらをするとか、嘘言や窃盗をする様な事もある。極端な場合は平常の抑壓をはね除けて大それた悪事、放火等をやつてしまふ事もある。斯く數へ立てるに劣等感は何にも困つた事になるが、併し劣等感があるに必ず子供は駄目になつてしまふ譯ではない。劣等感が無くして順調に成長出来れば幸であるが、劣等感があれば、又之が性格錬成の槌となつて子供を強く育て上げる原因にもなる。

劣等感のある者は如何にもひがんでをるが、併し反撥心も又旺盛である。何時までも小さくなつてをる事は人間の本能が許さない、何にかして盛り返さうとの努力は又人一倍強いのである。自己の弱點を補強し、補償しやうとする努力が現れて来る。以下劣等感に基いた色々な作用について説明してゆかう。

補償作用 劣等感のある者は、其弱點なる部分を特に努力して補強しようとする。體の弱い者は其體を特に鍛錬する。吃り吃りと言はれるのが口惜しくて、一人で海岸に行き吃らぬ様に口に砂を入れて辯舌の稽古をし、遂に大雄

辯家になつたと言ふローマのデモステネスの話は有名だし、耳が遠くなつた爲に音楽家としての生命に絶望した管のベートーヴェンが聾になつてから却つて優れた作曲をしてをるなごはよい例である。併し何時も斯かる様に巧くゆくには限らず、全く氣の毒な場合もある。或る十六になる子供、彼は三度も續けて落第する位の劣等生で、智能指數は七十五しかない。併し教室に於ける彼の學習振りを見る人は彼が劣等生である事に氣付く事は出来ないと思はれる。即ち彼は時間中一心に勉強し先生の質問に應じて第一に手を擧げるのは彼である。但し其答は何時誤つては居るが。又教室外でも常に忙しうにしてゐて勉強家らしい風をしてゐる。即ち彼は勉強が出来ないと思ふ事を現はすまいとして懸命の努力を拂つてをるのである。

斯かる缺陷のある點に於て補強する事よりも、他の點に於て補償する事が容易であり、又普通に行はれる。例へば體力ではさうていかなはないと云ふに、勉強の方で代償を得ようとする者が多い。一般に體の小さいちびと言はれる者から優等生が澤山出る。又女の子の學校の成績が良いのも、男の子から體力でいぢめられてる代償も考へられる。ロンブローゾは「天才に狂氣と言ふ書に天才の中には不具者や吃音者や病弱者が澤山ゐる事を述べてゐるが、斯かる偉人天才が出来上るには唯素質が優秀だけでなく、斯

る。自分一人の世界、空想に耽つてみるさか、其際に惡癖を覺えるさか、或は仲間から離れて、別の仲間、例へば年斯く身體的缺陷を研究や事業によつて代償を得ようとするものはよいが、反對に精神的缺陷を身體的のもので補ふものはきんものであらうか、勉強が出来ない青年は勉強を嫌ひ、其代りに運動に熱中して、其方面で頭角を現はさうとする者もある。人は何かの方面で秀でたいのであるから、健全な現れ方ならばよいが、問題になる場合も多い。

又特殊な能力で補償する事もある。例へば餘り一般的でないピンポンに上達して人を負かして喜ぶ様なもので、斯かる場合にピンポンに類似した處のテニス等もやりさうなものだが、斯かるものには絶対に手を出さず、唯勝味のあるピンポンしかしようしない。其他特殊な趣味さか蒐集さかに熱中して、物識りや學者的氣持を満足させようとするものもある。斯かる趣味に熱中する場合、本職の方もよくやつてをるのなら大變結構だが、本職の方で失敗したり、處を得ぬので、趣味の世界で代償を得てをるのには健全でないとも言へよう。

其他廻り遠い仕方で補償する場合もある。例へば親は子供を通して補償しようとする。即ち不遇の父親は子供が偉くなつてくれる事を一倍期待し、又自分が達し得なかつた同じ職場で成功してくる事を望んだりする。

其他補償作用に似たものにして同一視作用もある。即ち自分を仲間或は他の人と同じ視する事によつて優越感を持たんとするもので、子供は先づ親を自分と同一視し、親が偉いと思つても偉いと思つて得意になつたり、何か言ふ親を持出して来る。其次には仲間を持つて来て、自分の組が勝てば自分も得意になり、自分自身の劣つてをる事は忘れてしまつてをる。

自己中心性、劣等感を持つた子供は自分についての意識が強く、自分が世人より特に注意され、かまつてもらはれる事を要求する。他の人と同じ様に遇されてゐても、自分だけ無視されてをる様に思ふ。又身體的に缺陷のある場合等親も特に可哀想になつて面倒をみる爲に一層自己中心的になり、自分に特に注意してくれるのは當然だと思ふ様になつてくる。斯かる場合思ふ様に厚遇してくれない場合は、前述の如く特に冷遇される様な被害妄想を持つたり、人をうらんだりする。又子供の場合無理に人(親)の注意を自分の方に惹く様な行動をする事がある。例へば無理を言つて泣いて親の注意を惹かうしたり、食事をわざとこぼらなかつたり、不従順な事をする。斯かる行動をするさ突然叱られるが、彼にこつては無視されるより、叱られる方がましなのである。其他寢小便、指を吸ふさか、家出等が同じ理由で現れる事もある。斯かる場合には力めて無視して、

尙ほ、會期中、左の如き熱意の籠れる總意表明のあつた
ことは、何んたる心強いことであらう。此の表明は來會者
中の、板橋イヨ、利島勝進、吉富フキ、中根ゆた、岩井い

この、吉村喜久、田邊周の諸氏によつて起草せられ、その
案文に對し、滿場一致同意せられたのであつた。

四八

日本幼稚園協會保育講習會

參集者の總意表明

大東亞戰爭下に於て開催せられたる日本幼稚園協會保育講習會
に全國及び海外より來集せる七百九拾一名の幼稚園關係者は時局
の認識と感激と特に前線勇士に對する感謝とを以て愈々この職域
に精進し保育報國の實を擧げんことを期す

昭和十七年八月四日

日本幼稚園協會講習會々員一同

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十七年
九月

戸外の鍛錬

暑い夏の日には鍛へられて来た子どもに、爽やかな秋の風が慰め顔に吹いて來ます。が、自然はそうした優さしみをもつばかりではありませぬ。その優さしみの中にも、子どもを軽く想はせては置きませぬ。氣もちのいゝ秋の日光の誘ひで、子どもを活動させずにおきませぬ。

私達は、このいゝ秋、來る度びに、田園の子ども達の幸を思はずにゐられません。天には晴れ渡る碧空があり、地にはひろくとした野があり、空には雲が漂ひ小鳥が翔けり、野には藎が茂りばつたが飛び、子どもを決して室内にちづとさせずてゐませぬ。子どもははだしに鍛へられ、子どもは泥に鍛へられ、知らずして元氣に活動し、求めずして強健にせられます。幸なのは、遊びの中に鍛へられる子どもは生活です。遊びの中に賢くもされ、善良にもせられる。しかし、先づ強くして呉れる遊びこそ、子どもは爲に最も大切な遊びの生活です。

幼稚園は、都の中にあつても、せめて子どもに、秋の幸福をいっぱいにも與へたいと思ひます。強く遊ばせませう。そうして、強く鍛へませう。田園の子どもは、あの思ふ存分の樂しきは眞似られなにいにしても、室内より戸外に誘ひ出すことは怠りませぬ。

幼稚園から

○第二保育期では、お子さんが、すっかり幼稚園になれます。四月入園したお子さんも、もう幼稚園を、わがもの顔に元氣に振るまひます。これが此の九月の幼稚園の楽しいところですね。

○ところで、お園はいよゝゝ大きい戦争と大きい建設とで忙しいことです。幼稚園はその中でも、子どもを樂しませることを忘れませんが、ものは戦時下らしく質實に、儉約に、しつかりと戦時下らしい生活をさせませう。

○服にしても、帽子にしても、履きものにしても、成るべく古いものを大切に使い、手製の品で間にあはせませう。多少形がおかしくても、色がさめてゐても、子どもは平氣です。又子どもが着れば可愛いものです。お母さまが見えなすてるか否か、手まめに仕事をするか否か、それだけの違ひです。

九月の衛生 醫學博士 齋藤文雄

□兵隊さん達は夏の暑い盛りも、お休みなしに御活躍でした。皆さんの御子さんは夏休みで暫らく休養いたしました。

然しこれは寧ろさうなければならぬ事です。子供にはせめて少しのんびりさせる様な機会を與へてこそ大國民の態度と申す事が出来ませう。ましてや子供達も今年は積極的な鍛練のために休んだとしましたら猶更結構な事ではありませぬか。

□それはさうと愈々秋の學期に入りました。時候の變り目は何時もさうですが九月も同じ事、子供の身體にも變化が參ります。暑さに慣れた身體が暑さから放れてゆきますので兎角變化がある譯です。眞夏よりもお腹の病氣がふえるのもこの爲めです。寝冷えをしない様に精々氣をつけなければなりません。晝間の暑

さのつもりでありますと夜は存外に冷え込んで來るのです。

□夏の間食慾が無かつたり、時々わけのわからぬ熱を出したり、瘦せたりした様な方はありませんでしたか。こんなお子さんは暑さで積極的健康増進どころか却つて逆に弱つてしまつた子です。こんな子をさあ新學期といつて急に元氣づけますと却つて身體を毀します。九月はおとなしく、涼しさを待たせ、愈々調子が出た所で元氣づけてやる様にいたします。さうすれば結核性の病氣が頭を持ちあげ様な事もなくてすませう。

□帽子は必ずかぶらせて下さい。日常の暑さでそのまゝ暴れてゐますと、日射病や腦炎等起しがちであります。尙ほ腦炎等の防止には蚊に刺されない事。絶對に睡眠不足をしない事等の注意が要りま

す。

□デフテリーの豫防注射はすみましたか。濟まない方は今月行ふべきであります。豫防注射はやつたから直ぐ效くといふ譯には參りません。今月やつておいて丁度秋の終りから冬にかけて、即ちデフテリーの流行期に效目が出てくるのです。注射のしない方は早く行ひませう。

□日毎に涼しくなつて參りますが、夏の間切角裸體で皮膚を鍛練しましたのに段々重ね着をして行きますと、折角の皮膚が又役に立たなくなつてしまひます。一寸くしやみをしたとか、朝水漬が出たとか云ふ様な簡単な事で厚着をさせてはいけません。そんな時は寧ろ手足の皮膚を摩擦してやるのは結構ですが、簡単に厚着をさせてはいけません。九月の終りに一寸氣をつけますれば御子さんは一年間薄着で通してしまふ事が出来るのです。なるべく、夏の間裸體の習慣を壊さない様に、出来るだけ薄着で通してゆく様にして參りませう。これが結局風邪ひきの豫防、肺炎の豫防になつてくるのであります。

月刊「幼児の母」に就て

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にも、昨年一月、月刊「幼児の母」を始めてから、もう二年になります。毎號甚だ不出来ですが、それでも廣く各地幼稚園の御賛同を得て、月々、保護者へ配つて下さる方が多くなりました。

あんな小さいものですが、従つて内容も簡單至極のもので、大によろこんでゐます。ほんの四頁さいふのもの、忙しいお母さんの立読みにもさいふ、初めからの計畫で、手にされる方は皆、読んで下さるこゝろ、これが何よりなのです。

就ては、従來の方々は勿論おつゞけ願ひますし、新しい方々にもお願ひいたします。尚ほ、今までは毎月「幼児教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう大體お分り下さいましたこゝろ、思ひますし、月々の御申込みは、皆さんの方にも御手数数の多いこゝろですから、半年分なり一年分なりまとめて御註文下さるやう願ひます。當方でも印刷部数の豫めきまつてゐるこゝろ、時節柄必要になりましたのです。それで新しい幼児の入園から新たに御配布の方も多しと思ひますから、四月を初めとして、四、五、六、七、三四ヶ月を一期、九、十、十一、十二、三四ヶ月を第二期、一、二、三、三ヶ月を第三期としてまとめて

た方が御便利かと思ひます。一年拂は十一ヶ月分。

申込規程

一、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢（一部貳錢）

○送料 十部まで三錢 二十以上送料不要

○十部以下の端數はおこまはりします。

一、御註文の節は部數は何ヶ月分さいふこゝろ、御送り致す宛名を特にはつきりお書き記して下さい。

一、右御註文のお申込みと同時に必ず前金でお拂込み下さい。本會の振替口座（東京一七二六六番）をお用ひ下さるのが御便利です。

一、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、日本幼稚園協會宛。

序に甚だ立入つたこゝろのやうですが、御利用の仕組は（イ）幼稚園が保護者に無料で配布される場合、（ロ）實費を保護者銘々の負擔なさる場合、（ハ）幼稚園内の保護者會或は母の會等が費用の負擔をなさる場合等、その他いろいろの仕組があらうと思ひます。

充分御利用下さい。

する様な育て方をいたしまして、眞に國家の要求する様な人間をつくるこいふ自覺のない母親が少なからぬのであります。さういふ家庭教育をうけた兒童が國民學校にはいり上級學校に進みましても、所謂三ッ兒の魂百まで、中々先生の命に従はない、これが學校を出て工場にゆき、會社に勤め、役人になります。さうも禮儀を知らず、我儘で、怠け者で、無氣力で責任感がない。こまつたこまになりま

す。嘗て、フイヒテは普佛戰爭後、獨逸が疲弊しまして武力も經濟力も失ひ、國家として再興するのにはもはや教育しかないこいふこきに立ち上がったのであります。彼はあの有名な「獨逸國民に告ぐ」こいふ講演の中で、獨逸家庭の腐敗、墮落してゐる現状をなげき、幼兒の教育をかゝる父母に托するこは心配であるからよろしく國家の手に引きまつて眞の教育をほごすべきであるこ述べてゐます。わたくしは我國の現状がまさか、こゝまで到つてゐるこは思ひませんが、少くも相等多く心配な家庭があるのであります。

かゝる際におきまして皆さんは、幼稚園、保育所に於て、眞の幼兒教育をやつていたゞき、幼兒を通じて各家庭に、また自宅に於て兒童を教育してゐる父兄に、現代に於ける幼兒教育はまさにかくの如くでなければならぬこいふこ

こを徹底していたゞきたいのであります。この意味におきまして、幼稚園、託兒所に於ける幼兒教育はまここに重要な使命をもつものこ考へられるのであります。

(三) 幼兒教育の指導理念の確立

そこで先づ第一に申上げたいのは幼兒保育の目的であります。これは幼稚園令第一條に「幼稚園ハ幼兒ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス」こありまして極めて明瞭の様であります。しかし乍ら、こゝにあります善良なる性情こいふ意味はフレーベルの謂ふ所の善良な性情ではありません。これは勿論、日本人としての善良なる性情こいふ意味であります。また善良こ申しましても唯、やさしい、わるいこをしないこいふ様な消極的の意味ではありません。それは眞にお國のお役に立ち、天子様に忠誠をつくすこころの本當の日本人たる性情を意味するのであります。さう云ふ意味で先般、關西聯合保育會からもこの第一條を國民の本義に基き國民學校令の理念に添ふ様なものに改正してほしいこいふ意見書が文部大臣に提出せられてゐるのであります。これはわたくしなごも甚だ結構なここ、思ふのであります。國民學校令の第一條は御承知の様に「國民學校ハ皇國ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ國民ノ

基礎的鍊成ヲ爲スヲ以テ目的トス」三いふのでありまして國民學校教育の精神は皇國の道に統合歸一するこゝを目標としてゐるのであります。この精神は中等教育も高等教育も、更にすすんで學校教育のみならず社會教育も一般國民全體の教育もこれによるべきものでありますから、勿論、幼兒教育も例外たるべきものではありません。いやむしろ、三ツ兒の魂百までいふこの白紙の間に十分染みこませておかねばならぬものであります。

わが國の教育の根本は何ぞ申しても、大君のお役にたつ者をつくるさいふことでありまして、御承知かとも存じますが東郷元帥の御母さんは寢てゐる子供の枕もこはあるかれず必ず足もこをあるかれた、これはわが子乍ら將來は陛下のお役に立つ子供ご思へば女の身でその頭のこころはあるけないさいふ御志だつたさいふことでありませぬ。この心構へが大切でありまして、皆さんが幼兒を保育なさるにあたりまして、これが後々にはわが大君のお役に立つのださいふ根本を離れないでいたゞきたいと存じます。そこからにじみでくくる愛情が眞の日本人としての愛情であります、これではこまるさいふ怒りの念も、こゝからでくくるならばほんものゝ怒りであります。こゝにもつてまゐりました歌集は舊國歌集きゅうこくかであります、有て、これはつひこの間出版せられたものであります、有

名な幕末の烈士、水戸の方で佐久良東雄先生のお歌を集めたものであります。この方のこゝは平泉澄博士が、眞の日本人としてこれを讀へられ、佐々木信綱博士は勤皇隨一の歌人ご賞めておられます。この歌集の中にこんなのがあります。

きこ、にらみて、ふしたる虎の畫をみて

おほきみのまもりこならんますらをも

かくこそあれごおもはるゝかな

虎がいかにも強さうに、きこにらんでゐる繪をみられましても、すぐ大君を守るますらはかくこそあつてほしいとすぐにそこへ心が向いてゆくのであります。

またこんな歌があります

いのちだにおしからなくにおしまるゝ

ものあらめやも君かためには

ちりじこつわかものはなきよの中に

きみのめくみをわすれさらなむ

まここに深く反省して味ふべきお歌であります。しかも先生は單にかゝる歌をよまれたさいふだけではありません。身をもつて、その心懸を實踐して居られるのであります。そして幕府のために捕へられて獄中に死んで居られます。

大東亞戦争がはぢまりました時、當時の新聞に、きこか

生さいふ方面がまだ十分に徹底してゐない様に思はれるのであります。殊に今や我國は大東亞共榮圏の建設に多くの人を要し、たつた一億の人口をもつてやつてゆかねばなりませんのに、御承知の様に幼児の死亡が多く、また病人が多いためです。年々十五六萬の若い者が結核でたはれてゆきまゝです。この際におきましては、これからの幼児を立派な身體をもつた人間に育て、ゆくこゝが實に必要なこゝでありません。さうぞ皆さんはこの養護、衛生の方面に一層の御努力を願ひたいのであります。

勿論これにはいろいろの設備が必要でありまするが、しかし眞に陛下の赤子をおあづかり申上げてゐるのであるさういふ自覺をしつかりお持ちになれば時局下設備が出来なくとも相等の成績をあげるこゝは不可能ではありません。

わたくしの知つてゐるある女學校の先生は毎月自分の組の生徒の體重をはかりました。ところが一人の女生徒がだんだん體重が減じてゆく、別に病氣をしてゐる様子もないので親切にいろいろ尋ねて見ますと、家庭的に心配があるこゝがわかりまして、家庭と連絡をとりつひにその原因を除き得た方があります。毎日接してゐる可愛い幼児の顔色、目つき、態度をよく注意してをりますと、お医者さんでなくても健康診断は出来ます。勿論定時の、または定日の健

康診断をお醫者にやつていたゞけるこゝろはこれに越したこゝはありません。そして幼児の異常を早期に発見しまして手あてを加へるこゝは實に大切であります。殊に傳染病などは是非、早期に発見して蔓延しない様にしていたゞきたいと思ひます。それから清潔さいふこゝろ、不潔なこゝろから病氣が忍びこみます。よく手足を洗ふこゝろ、爪を切るこゝろ、こんなこゝろは皆さんの方が詳しいと思ひますから略しておきます。これに關聯いたしまして、便所の不潔な幼稚園が間々ありますが、これはそれだけでその幼稚園は駄目だと思つてよいと思ひます。便所さいふこゝろは大切なこゝろでありまして、禪宗のお寺なごへまゐりますと、便所にいつも新しい花が生けてあるこゝろがあります。また管長さんなごが真夜中にそつゝ起きて小僧のゆく便所を一人で掃除されこつそりゝ寝られて知らぬ顔をしてをられる方があるさうです。さうぞ外のこゝろはさもなく便所だけは皆さんが他人にまかせず自分で掃除をして下さい。これは實に大切なこゝろであります。

それから幼児に正しい姿勢をこらせておくこゝろ、これは健康の根本でありますから是非御注意を願ひたいと思ひます。脊柱彎曲は内臓の故障の原因になるさういふ様なこゝろもありますので國民學校をはじめ學校では種々努力してゐるのであります。さうも徹底せず、二三年前文部省で高等

學校の生徒約一萬五千人について調査いたしましたところ何七七十人以上も脊柱彎曲の生徒がありました。これはまた單に健康のためばかりではなくお話をきいたりする際にも、からだを曲げてゐては十分精神がはいらぬのであります。

また新しい空氣と日光の必要なこと、適當な休養を忘れないことなき、養護について必要なことが多過ぎ存じますが、わたくしはこゝに養護についても、さきに申し上げます華東の辨をお忘れにならない様に御注意願ひたいと存するのであります。

即ち西洋と我が國とは氣候も風土も違ひますしまた親からの遺傳的體質も違ふのであります。即ち我が國は北に大陸をひかへ南から暖流にあらはれます關係上、非常に濕氣の多い國がらでありますし、またそのために五穀がよく實り魚類が豊富であるために穀物と魚類とを常食としてきた國民であります。かゝる國民は、乾燥した土地に肉類を常食としてきた國民との間には生活の上にも種々の相違があり、幼児の養護といふ點でも西洋のやりかたを直ちにもつて採用することは考へるものであります。

近頃よく肉の配給が足らぬといふことをきゝますが、はたしてそれほど日本人に肉が必要でありませうか。吾々の祖先は肉食せずして非常に強健であつたのであります。歴

史をよんで見ますとそれは明瞭でありますし、今から三百七八十年前に日本にまゐりましたクラセイといふ西洋人の書いた日本西敎史といふ本の中にも日本人が強壯にしてよく戰鬪に堪へ、身體長大にして精神が活潑でありよく物に堪へ忍ぶことは實に感ずるにあまりがあるといひてゐますし、また元祿の頃日本にきたケンベルといふ獨逸人のかいた日本紀行の中にも、日本人は諸草、諸根、海草の類をもつて生を養ひ、水を常にのんで、あらゆる艱難を堪へ忍ぶ國民であるといふことをのべてゐます。

日本の古來の醫學を研究してゐる方は日本人は肉はたへない方がよい。これは腸内で腐敗し、自家中毒をおこす、また血液を酸性にするのでよくないといふ申しておられます。第一次大戰前までは西洋でもフォイトといふ榮養學者の説が行はれまして肉食がすゝめられましたが近來はドイツに於ても肉食の害が唱へられ野菜食を可とするものが増加してきました。現にヒットラー總統は肉食をしないであれだけの活動をして居ります。

砂糖につきましても同様のことが云はれてゐます。殊に米食は體內では糖分になるのでありますし、又副食物を煮る際には大抵砂糖を入れるのでありますから、その外に菓子や喰べねばならぬといふことはありません。

日本人の正食としては主食物としては米、副食物として

は野菜、海草類、骨のまゝの小魚がいゝのであります。

それから人間の胃腸は試験管の様なものではありませんから、只栄養を何カロリーつめこんだからそれでよい云ふものではありません。胃腸で消化し、これを攝取してはじめて栄養となるのでありますから、少食の方がかへつて胃腸を健全ならしめ十分の攝取が出来るのであります。

近時我が國に於てはこの西洋流の栄養さいふことを誤り傳へまして、幼児にもなるべく澤山たべさせるのがよいさいふ考がさかんになりまして、ある中學の先生が生徒に向つて諸君は生長ざかり食ひ盛りであるから、御飯は一日十二杯以上たべよと訓示されたさいふ様なことをきゝましたが、さういふ風に考へてゐる方が少なからずあるのであります。これは間違ひでありまして、大食は胃腸擴張を起し、それが益々大食を可能ならしめましてつひに慢性の胃腸病患者にしてしまふのであります。

以上のことは幼児にまつても大切でありまして必ずしも澤山たべる必要はありません。むしろ愉快な気分でたべさせ、また十分咀嚼させるさいふ様に、そのたべさせ方が大切であります。

このよく嚼むさいふことは少量でも満腹感をおこさせます、その上かみくだくさいふ物理的作用の上に、唾液を混入させまして糖分その他の栄養さして胃に送るさいふ化學

的作用をも營ましむるものでありますから幼時からこの大切な習慣をつけさせることが必要であります。

食事についてはこれ位にしておきまして、これは後に申上げる鍛鍊の方さも結びつくさ思ひますが、幼児から坐る習慣もつけてほしいさ思ふのであります。わが國でも大分椅子生活が流行して居りますが、家庭へかへればまだ坐る方が多いのであります。大きくなれば禮儀さしてもこれをやらねばならぬ機会が多いのであります。近頃學校でやつて居ります鍊成講習會には大抵坐るさことが多いので學生生徒はすはつてゐる様であります。これは心を落ちつけるによいばかりでなく、腰の力を強めます。日本人が腰の力の強いのはこの坐る習慣があるからだささへ云はれてゐます。またこの坐るさいふことは前に申上げました脊柱彎曲を防ぐのであります。椅子にかけて身體を曲げて机にもたれかゝつてゐる習慣が脊柱を彎曲させるのであります。

さういふ意味で出来るならば幼児にも、養護室の一部に疊敷きの部屋をつくつて運動の後にはそこで暫くでも靜座をさせる習慣をつけてほしいさ思ふのであります。

最後にこれはさうも皆さんにやつていたゞけない様な心地がします、まだ文部省督學官としては申上げるのは早すぎる様な氣がするのですが、私個人の體驗さしまして是非御研究を願ひたいさがあります。それはお灸のさ

であります。

わたくしは二十年以前からお灸をやつてゐます。そしてそのお蔭で健康を維持してゐる様に思ふのであります。お灸といふものは血液中の白血球を増加させますので病氣に對して抵抗力をたかめ、赤血球をふやまして吾々の體内に酸素をこり入れるに必要なヘモクロピンを多くしてくれます。それから血液中のカルシウム量を増加させますし、また尿量を増して、體内の毒素を排泄する力をたすけます。そのほか、神經の働きをよくしますので、たかぶつた神經をしづめたり、活動のよはつた神經をよく働く様にします。さういふ意味で健康を高め、病氣を豫防し、また治癒せしめるのです。

我が國では欽明天皇の頃、支那から輸入されました、中世紀では殆ど一般國民の常識になりました。當時、醫師は灸と鍼と藥とを用いたものであります。明治以來は殆ど醫師からはかへり見られませんが、民間療法として一部に行はれるにすぎない有様となつてしまひました。吾々の祖父母の時代には子供が生れます三百日以内にチリケの灸を申しまして、脊骨の第三椎にある身柱といふところへ灸をするたものであります。この風習は現今では鳥取縣、島根縣といふ様な山陰地方が四國のある地方にかに残つてゐる位ださうですが、惜しいものだと思ふのであります。

わたくしの近所で小兒喘息の子供さんがあり、さうしても全快しないのでお灸の話をしました。た處が早速實行され、今でも時々やつてをられますが、その後全快されて殆ど發作がおこらなくなつたのであります。

一般の人は今だにこのいふ灸を野蠻な遺風の様に考へられたり、あさが残るからいやだとか、熱いからおそろしいとか云はれますが大したことはないのです。それに病氣や手術さくらべては問題にならないことでもありますから、もし皆さんのうちでやつて見ようと思はれる方がありましたら御研究を願ひまして先づ自分が實行して見られ、確信を得られました上、幼兒の養護にも御利用を願ひたいと思ひます。

お灸のきくことゝの實例をわたくしは澤山知つてゐますが、今日は割愛しておきます。くはくは中山忠直氏のかかれました漢方醫學の新研究とか、代田文誌氏のかかれました、澤田流開書鍼灸真髓、明光記等をおよみになればわかります。

さもなく、わが國は前に申上げました如く濕氣の多いところてあります。濕氣が多すぎるとこゝは神經系統をよほめ、呼吸器をわるくします。それで神經を刺戟してこれを働く様にする灸なごが過去に於て發達したものと申ひます。

只、大切なことはお灸も、勝手に自分でさうこへでもするてもかまはないといふものでなく、信用のある、なるべくならば斯道の大家にやつていたゞくことゝが必要であることゝです。

(つづく)

幼児の積極的保健 (二)

愛育會保健部長 齋藤文雄

それでは只今から十時まで、御命令により、幼児の積極的保健といふ題で暫くお話し申し上げます。

幼児の積極的保健につきまして非常に問題は難しくなります。その言葉を使ふには先づ、普段の保健がさういふ事を心得てゐなければならぬからであります。今日、保健問題は各方面から取上げられて居りますが、これはさういふわけであるかを真先に申し上げます。我々日本人としてさうしても此の際覺悟して行かねばならぬ大きな問題があるからであります。幼稚園、保育所に取入れるにも單に文部省がさういふからさういふだけでは満足出来ぬ、大和民族發展の全體に關係ある大きな問題があるのであります。

今日の赫々たる戦果を永久に光輝あらしむる爲には、第二の國民たる學童、乳幼児に大きな期待をかけねばなりません。政府に於ても優生法、人口問題確立要綱等の各法案を次々に出し、人間の量、質に於て立派な日本人を作るようこの大方針を與へられました事は御承知の通りであります。

ます。之を机上で作りますのは簡單であります、實行に移すのは我々であります。我々は小さいながらその分野々に於て盡す事が、全體では大きな問題となります。人口問題、優生問題は我々から縁遠い様に見えますが手近な問題であります。

我國は子供の育て方が下手で、世界の三等國、或はそれ以下の國と肩を並べる情無い國であります。これからの大東亞共榮圈に於て大きな働きを約束されてゐる大和民族に於ては、心身共に健康なものが澤山出来る事が期待されて居ります。兎に角、一人でも餘計數をふやし、質をよくする事は、今日我々國民の一人々々が覺悟して行かねばならぬ事であり、先づこの事を心の底にしつかり抱いてゐて頂きたいと思ふのであります。

扱て我々が積極的保健を目指す事になるに、その根柢となるべき問題を考慮せねばなりません。身體の發育をよくする事は一手段であります、これがすべてではありませ

ん。積極的保健の最も大切な目的とするのは體力でありま
す。體力こそ窮極の目的であります。小さな體でも體力が
あればよいのです。體力の問題は今度の文部省の省令、厚
生省の國民體力法を見ても、決して身體の發育の良いのこ
は違つた意味で體力といふ言葉を使つて居ります。體力こ
は精神力であり、發揮し得る運動能力、艱苦に堪へる忍耐
力、持久力とも云へます。この體力を鍊る事に積極的保健
の目的もあります。

近頃、鍊成といふ言葉が使はれますが、これは大人には
非常に簡單な事であります。大人を集めて鍊成する云つ
ても、集る大人の頭に觀念を植ゑつけておいてする事が出
來ます。精神力が先立つて肉體を助けるのでありますが、
幼児では趣を異にし、精神力を先立てる事が出來ません。
幼児の積極的保健、積極的鍛鍊は、その子供の日常生活そ
のものを對象とし、その中から引き出して行かねばならな
い特殊性があります。その子供の生活の中から、或は生活
そのものを對象として積極的保健に邁進して行くことになる
で、精神力より科學的指導の方が大きな問題になります。
故に指導者は先づさうしても子供についての科學的知識を
持たなければなりません。然し、さう申しますと何か難し
くなり、醫者なら出来るかも知れないが、我々には及びも
つかぬとお考へかも知れませんが、科學は難しいものばか

りではなく、日常生活に取入れて易々實行し得るものも
あります。眞の科學こそは背柵の隅に飾つておくべきもの、
象牙の塔の中のものではなく、取つて以て即ち生活、生産
に取入れられるものでなければなりません。

幼児の積極的保健に取入れられるものはいくらも周圍に
見出せます。先程、積極的保健の内容として、積極的保健
をするには日常保健のある程度の把握がなければ出來ない
と申しましたが、日常保健といふ言葉を使つて行く上には
さういふ内容が考へられるか、要諦はそこにあるかを申し
ますと、私は大體次の五つを考へておきたいと思ひます。

第一 體質の問題

第二 環境の問題

第三 養護の問題

第四 榮養の問題

第五 疾病豫防の問題

この五つを考へます。この他にもまだありますが、保健
といふ言葉を精神方面より肉體方面に考へるはこの五つが
大きな問題と思はれます。

只今の順で積極的保健に必要な知識を申し述べますと、

第一 體質 體質の問題の中で皆さんに御記憶頂きたい
問題は

(一) 浸出性體質

(二) 無力性體質

(三) 神經性體質

であります。この他にもいろいろありますがこの三つを取り上げておけば大體よろしいかと思ひます。

(一) 浸出性體質 之は非常に多い體質であります。その内容はさうかき云ふに、簡單に云へば皮膚や粘膜のカタル症状を起し易い子供さいへませう。あせもがすぐ出来る。蟲に刺されるミスぐ腫れてうむ、皮膚病・蕁麻疹になり易い、風邪をひきやすい、又扁桃腺肥大、アデノイドなごもこの體質に多いのであります。

(二) 無力性體質 之は生れつき非常に弱く、體力上の落第生であります。努力しても努力のし甲斐がなく、他の子供の後から追いついて来る様なごもであります。見た所も肩幅狭く、胸長細く、手足が長く、脂肪少く、身體全體の緊張性がないのであります。

(三) 神經性體質 之は時間の節約でくはしくお話致しません。御想像下さい。

以上の如くいろいろの體質がありますが、かゝる體質の子はみな劣弱者かさいふに決してさうは云へません。そこに我々は積極的保健の樂しみ、希望を持つのであります。

恐らく皆さんの中にも子供の時に浸出性體質で困られた人があつたと思ひますが、大人になるご體つきの上では區別

がつきません。その特徴を抹殺までには行かなくとも、それをなさぬ様にしてやる事が可能であります。例へば浸出性體質の子供でも鍛錬によりその特長を出させない様にする事が出来ます。世間で注射やのみ薬で體質を變へるご云ひますが、遺傳的體質を變へる事は今日の醫學では無理なのであります。たゞ體質の特長を減らす事は出来ます。擬て、體質を積極的保健の意味から考へればさうなるか、體質は根本的問題で、その人を運命づけるものであり、遺傳であります。體質を見きはめるさよい健康状態に導いて行く手段があります。浸出性體質は體にカルシウムが足りないごいふ、或ひは皮膚の刺戟が強すぎるご云ふ、それなら、皮膚を日光に照し、風に曝し、皮膚を鍛へるのであります。又野菜やカルシウム投與でカルシウムを得させる以外、積極的手段はありません。體質には遺傳的關係があるので最もやり難い問題ご云へませう。醫者でもやり損ふ事があるので、皆さんにこれは望めません。たゞ、體質が第一の大きな問題であるごいふ事は云へます。風邪ひきの子供にはその原因がごこにあるかを探究する事が必要であります。

第二 環境

凡そ生きこし生けるものはその置かれてゐる自然界に支配されます。これ即ち我々のいふ環境の問題であります。置かれた自然界に於て體がさしきさはりなく順

應して行く事が我々生物のもつ一つの特長であります。例へば植物でも椰子の實は臺灣以北にはない。樺太のツンドラは北海道にはない。これは植物でも土地に順應した生活をしてゐるからであります。動物は植物に比べて順應する力が大きいから、限界が植物ほどはつきりして居ません。寒帯のエスキモー人を日本に連れて來ても直ちに死ぬ事はありません、我々が南洋に行つても同様であります。

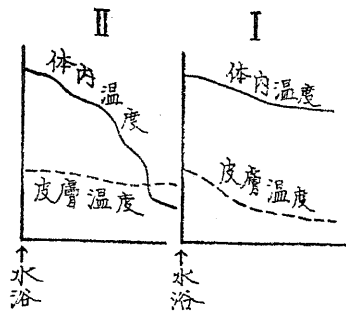
然しこゝに一つ大きく考へておかねばならぬ事は、順應さ云つてもいろいろの順應の仕方があります。今日、日本人が南方に行くに憂へられてゐるのは、十年も二十年もの間、南方の大和民族がこのまゝの勤勉な日本人であり得るかといふ事でありませう。五年、十年後に土地に支配され、今日のマレー人と同じにならぬかといふ事でありませう。之は土地の自然力である方が當然さ考へられます。故に今日まで英蘭人のして來た様に、長い間あちらに置かず、二、三年で交替させる事が矢張りよいのではないでせうか。あちらに二年のれば今度は二年日本に歸り、日本人の精神を取り戻し再び南方へ行くのであります。細かく云ふと内地でも云へませう。北海道の子と臺灣の子はそれ／＼の土地に順應して居り、我々は自然の力に抵抗出來ませぬ。更に細かく云へば水、地形の問題もありますが兎に角、環境問題を積極的保健に取入れるにはさうすればよいでせうか。例

へば限られた土地に順應して育つて居るだけでよいでせうか、我々は一生をそこだけでは過せませぬ。今日東京にゐてもやがて兵隊として南へ北へ行く時、直ちに障礙を起す様な身體では駄目であります。あらゆる環境に堪へ得る體を養ふ事が大切であります。轉住保育をするさか、夏、山や海に行くのはその意味で大切であります。只、今日戦時下で不自由を忍んでゐる子供も、國としての戦ひに犠牲をばらふのは當然の事ではありますが、かゝる状態が長く續いては困るのであります。テント生活、海岸生活は決して贅澤ではありません。變つた土地に行き、水、空氣、溫度、濕度の違ふ所で積極的生活をさせるのは避暑避寒と異り、大切な問題でありまして、今日でも子供たちだけには進んでこれをしてやるだけの雅量が欲しいと思ひます。斯ふして自分の生活環境に順應するだけでなく、あらゆる環境にも負けない肉體と精神を養つてゆきたいものであります。

第三 養護 これはすでに可成り／＼な機會にきいて頂いてゐると思ひますが、子供そのものゝ衣・食・住の問題が中に含まれるのであります。食は別に榮養の問題でさうあげますが、著るこゝ、住まふこゝ、更に云へば空氣、日光などいろいろあります。養護とは子供をいぢくりまはす事ではなく、積極的保健の意味を持つものであります。

衣の問題では幼児に於ても厚着の問題に歸します。厚著

が子供の身體に如何に悪い影響を及ぼすかが親に分れば、あんな残酷な事はしないと思ひます。厚着には悪い點が多いのです。例へば海水浴の話にしても、



Ⅱ圖は厚着の子供を水に入れるさうなるかを示したものであります。皮膚温度はそれ程冷えて來ないで、體の中の温度は蕊がさん／＼冷えて行き、水浴の時間が長ければ長いほど冷えるのであります。普段薄着をしてゐる、皮膚の鍛練の出來てゐる子供は、Ⅰ圖の様に皮膚の温度は忽ち冷えますが、體內温度はなかく冷えません。即ち長い間水浴が出來るのであります。Ⅱ圖の子供はガタガタふるへ、肩が紫色になります。之は水の中の場合を云つたのであります。即ち空氣にふれる事に於ても同様であります。これは變へる事が出來ないか云ふさうではなく、幸ひ鍛練すればⅡ圖からⅠ圖に皆移す事が出來るのであります。即ち海水浴をする事はⅡ圖から

Ⅰ圖に移してやる事であり、こゝに海水浴の効果があるものであります。

何故かく違ふか云ふさうだん厚着の子供は皮膚が暖まつて居ります。我々の皮膚の血管はあたゝまるに膨張し、冷えるに收縮して體温を調節するのであります。夏は血管が膨張して血液を皮膚近く通して冷やし、冬は收縮して中を通してあたゝかさを逃がさぬやうに致します。此の血管を膨張させたり收縮させたりするのは神經の働きであります。ふだん薄着をしてゐる子供は收縮させる神經も發達して居りますから、水に入るさうすぐこれが働いて血管が縮まり、血液をひやさぬ様にするので皮膚の温度は下りませんが、体内は割合に冷えません。厚着の子供はこの反對であります。その他厚着の障害を述べる時間がありませんが、着物の問題は外観上、運動上いろいろありますが、一番大きいのは厚着の問題でありますのでそれだけを取上げておきます。

住居の問題で一番問題にするのは光と空氣の問題であります。良い空氣、明るい光が我々の念願であります。農村は光も空氣もよいが住居内ではさうは行かない事が多いのです。環境上よい空氣、よい日光があつてもよく出來てゐない事があります。東京では外にゐてさへ箱根邊りの四分の一しか紫外線がありませんから、外にゐる事は重大な意

味を持つて参ります。中村、有馬兩保姆の研究によりまして子供が保育時間の何パーセント位外で遊ぶかを調べた報告では、天氣の日に幼稚園に於て保育時間の三〇パーセント足らずしか外で遊んで居りません。日光にあたる時間は三分の一、約三割であります。するに、快晴の日の續かない土地では日光にさらされる時間は一月二割以下といふ事になります。しかも夏はまだ多いのですが、冬部屋の中だけで保育してゐるに、これは紫外線に恵まれぬ事非常なものであります。三分の一を外で遊ぶ時間割は保育上無理

だといふ事ですが、雨の日の事も考へて是非さうして頂きたいと思ひます。

空氣の問題は新鮮な空氣を吸はせればよいと云はれますが、空氣と共にもう一つ風といふ事を考へなければなりません。風のある所で育てる、皮膚をさらす、これが本當の意味の積極的保健になります。運動の間位は薄著をして風にさらす必要があります。かうして外の變化に應じて皮膚の動きが敏感になり、これが皮膚の鍛鍊であります。

現時局下に於ける幼児保育 (二)

倉 橋 惣 三

私の問題は「現時局下に於ける幼児保育」さういふ問題であります。これはいろいろの方面から取り扱はれると思ひますが、私はこの度は、この非常な時局下に於て我等が幼児保育上特に力を用ひねばならぬ保育方向に就いて御一緒に考へてみたいと思ひます。それらの方向は、日本の保育に於て、今日特に始めて新しく起つたことではありません。

豫ねて含まれてゐたことではありますが、お互の時局認識から、一段と擴大され、強化されて來た事が取り上げられるのであります。さて、現時局下には、日本が大きい戦争と大きい建設とを同時にしてゐる時です。しかもそれが、長期に亘るべき戦争であり、建設であり、従つて我等のあの可愛い、子供達に荷つて貰はねばならぬ戦争であり、建設であるのであります。そこで、それに對して如何の方向に保育すべきか。

第一 皇民教育

その第一は子供達にしつかり皇民教育をすることにあります。皇民的性格を養ふことでもあります。この事はもう實に申すまでもない事ではありますが、私は二つの點で特に御注意を促したいと思つて居ります。一つは幼児さういふ何分にもあの淡い、單純なものを相手としてゐる教育に於て、その皇民教育が、實際として本當に徹底すべきところに狙ひをつけてゐるかさうかさういふ問題であります。たまへば、ここによるに、皇民教育をその言葉の大層高いところで實現してゆかうさしたり、又その反對に、幼いものだからさういふので餘りに淡いものにして過ぎたりはしないかさういふ事があります。これは國民學校にならつて私の唱へてゐる國民幼稚園さういふ事に就いても度々お話し來つたことでもあります。十分に考究を要する點であります。私はその事に就いて、理解の爲豫備的に先づこんなことを考へます。從來幼稚園のなかに、宗教教育を目ざして保育してこられたところがありますが、その場合、特に幼児に對してさう

いふ風に宗教々育をするかといふことについて、いろ／＼研究が出来てゐた事と思ひます。佛教は佛教、基督教は基督教で、先生の高い深い宗教信念を幼い子供にさう與へるさかといふことは必ずしも簡單なことでない。それが幼児宗教教育として研究し來られました。これに必ずしも一つことではないが、同じく性格の教育、信念の教育として、幼児皇民教育の一方はそれ程こまかく研究されてゐないのではないかと考へるのであります。お互、大人のもつ信念そのまゝを幼児が持ち得るわけではありません。質に於て、形式に於て、強さに於て我々と同じにといふ事は無理であります。さいつて、幼児に皇民教育をしないでおくことは保育の任務からいつて許されることではありません。年齢に即して適切なことをしなければなりません。皇民教育といふことは、今更問題を設けるには餘りに當然の事でありませんが、その實際に就ては、周到な研究を要するのであります。

前に二つ感じるに申しましたもう一つの事は、幼児にふさはしい心理的方法如何といふことの他に、今日の時局は皇民精神の發露であると共に、また皇民精神が反映的に強められてゐる時だといふことでもあります。これは恐らく、幼い子供にも同様であります。彼等も皇民精神の最も熱い風、強い波に毎日ひし／＼に押されてゐる。即ち今日に生

きる事によつて幼児達も皇民精神を一杯に享け與へられてゐるのであります。さう考へて、あの子供達を含めた皆が今日の時局から享けてゐる皇民精神の熱い風、強い波、その強さは強さとして、どんな味ひのものであらうかといふことを考へてみなければなりません。私は假りに、ほんさうに假りにいつてみませう。この大戦争が緒戦に於て今日に反對の狀態であつたらさうでありませう。或は反對でなくとも、かくの如く赫々たるものでなかつたましたらさうでありませう。私共大人はそれによつて更に力を出したてでありませうし、また出さねばならぬのであります。勝敗により精神が強くなり、弱くなる相違はないのであります。しかも、この有難い十二月八日以来、我々のうけてゐる皇國精神の反映はさうでせう。楽しいに申しませう。よろこばしいに申しませう。金色の光輝かしく、紅色鮮やかな積極的感激に満たされてゐるのであります。

負けたからしつかりやらうといふのさ全く別です。いふまでもないことですが、喜びに躍り立たされてゐるのであります。この喜ばしき、嬉しき皇民精神、子供達がこの喜びを以て皇民精神を與へられてゐるといふ事、これこそこの大東亞戦争の事實としての特質であります。私は此點を忘れてはならないと思ひます。忘れるも、忘れぬもない。實にさうなのであります實に、子供等は嬉しさ喜びさ有

難さに於て、毎日皇民精神を反映されてゐるのであります。してみれば、今日に於ける、特に幼児教育に對する感激は、この感激から直接來るものでなければならぬのであります。國に對する責任感も持たせたい。國に備ふ必要なことも教へたい。油斷するなご性格のまごかに釘を打つておいてもやりたい。けれども先づ皇國に對する感謝教育、歡喜教育が與へられるのであります。それをしつかり與へなければならぬのであります。これは同じ今日でも日本のみが味ひ得る時局下幼児教育の特色であります。さぞかし米英でも、戦時下の幼児保育について論究してゐることでありませうが、それは我々の場合は全く別の性質を持たざるを得ないのであります。

元來、我々が幼児の心理に即して與へようとする保育も、日本人たるこごの嬉しさ、喜び、有難さをあの幼い心に一杯に植ゑつけ育てる事であります。しかも、それが何ご有難いこごでありませうか、今日の時局が非常の力で、その皇國民たる喜びの教育、感謝の教育を與へてゐるたぬ事なのであります。これは我々が一時も忘れてはならぬ事なのであります。

國民學校の國民科の本旨でも、國語なり國史なりをこの精神で教育してゆけご書いてあります。此の國に生れたる

喜びを感じしめよごあります。が、これはさながら、時局下に於ける幼稚園の皇民教育の特色を實にはつきりいひ現はしてゐるご思ひます。國民學校ごは大東亞戦争前に出來た言葉でありますが、國に生れた喜びを感じしめよ、國民たる義務を感じしめる前に、國に生れた喜びを感じしめよごいふのは實に深い意味があります。幼稚園に於てもこごに歸著するのであります。

我々は喜びを以て我々の信念を傳へたい。これが爲に第一の必要は、お互が、今日に於ける重大性ご共に、稜威の下に於ける勇士の方々の奮戦によつて自ら感激に満たされてゐるこごです。基督教者は神に對する感謝を以て子供の前にゐる。佛教信者も佛の慈悲に對する感謝を以て子供の前に立つのであります。こんなこごを例にさる迄もなく、我々は實に、この國民的喜びを以て子供の前にゐるのです。此喜びを言葉に彈力的に響かせ、子供の前に行動するこごによつてのみ出來ます。我々には個人的な不満もいろいろありませう。けれども子供の前に立つ時には、たゞひたすらにこの國に生れたよろこびを以て立つ。これが第一であります。しかも更に實際としては子供達に如何に強く此のよろこびを傳へるか、此の好機會を眞に把むか、これが今日の保育であるご思ふのであります。大正の御代にも、明治の御代にも、萬葉の時代の人ごこの國に生れた喜びを感じ

じましたが、昭和の御代に生れ、この御代に幼児期を過す子等をして、此の偉大な喜びを感激を以て幼稚園時代を過ぎさせることに、我々に一點の落度、ぬかりがあつてはならないのであります。しかも誰れだつて今日は此の喜びを感激で子も達と共に幼稚園にゐられることの有難さ、これを感謝せざるを得ないのであります。女子の農村の劇券も、女子の産業戦士の仕事もたゞこれ戦勝の感激さよろこびに於てその苦勞に打勝つてゐるのであります。お互、こゝに於て特に強きものがなければならぬと思ふのであります。

昨日は、この時局下における保育の最も主なる狙ひ所として、子供等に皇國民教育をすることを申上げたのでした。この皇國民教育をする事は、必ずしも今日に始まつたのではありませんが、問題とするところは、幼児には我々の持つ信念の形や觀念の形で教育してゆく事は心理的に難しい、そこで、觀念や信念でなく、皇民感情の教育をしてゆくより仕方がないし、また後に國民信念がはつきりしてゆくにしても、その中に生々しい皇民感情が湛へられてゆくのでなければならぬのです。年齢の上からも、基礎教育であるといふ上からも、先づ感情的教育をしてゆくのであります。

さて、皇民感情とは何であるかを申します。この國に生れた喜び、稜威の下に生れた有難さを感じる歡喜、感謝の他あり得ないのであります。我々は常にこれを志してゐるのであります。幸なことに、全國この心で溢れてゐます。それが幼児の感じ易い心にひしひしとくるのであります。さうします。一般的、理論的立場からゆきます。現時局におきましては申し分なくこれが實現せられ得る條件にあるのであります。従つて我々はその點に於て一つでも缺くるところ、努力の足りぬところがあつてはならない。大いに感ずるのであります。

それでは實際さういふところで行はれるかを申します。お互の心の中にある皇民感情が溢れておのづから幼児に及ぶ。これが第一であるといふまでもありません。普段でも先生に楽しいところがある。自ら子供にそれが及ぶものです。往來でお金を拾つた(笑聲)といふのは情ない喜びであります。朝出がけに楽しい手紙が來てゐた(笑聲)も、私事ながら何もなくして、顔が輝いてゐます。(笑聲)いつもにこ／＼していらつしやる先生だ。今日は特別にこやかである。する子供等が手を引つぱつて顔をみながら、「今日は天氣晴朗だぞ」(笑聲)こさかし女の子なまは、いゝ事教へてあげませう。今日先生にいゝお話があるのですつて(笑聲)等といふ。こんな私事の小さ

な事でも實に影響する。さうもこの頃先生愉快さうである。調べてみるに、今迄人生の暗い雲に蔽はれてゐたのが、たま／＼宗教的信念を得て人生の暗雲がぱつ／＼開けた。保姆觀音、先生から後光がさしてゐる(笑聲)こんな工合であります。ましてや今朝の新聞で、今朝のラヂオで、先生が私事に比べるこゝの出来ない國民感情に燃えたつて足音も勇ましく幼稚園に來る。子供が鼻をたらしめてゐてもはな／＼しくみえる(笑聲)天長節や紀元節の朝にはお互「おはや／＼」と申しませんで「おめでたう」と申します。今日は毎日おめでたうと／＼と申してあります。先生が私事でよろ／＼と申してゐれば、子供は何だ個人的喜びか、自分だけのよろ／＼と申してゐるかと思ふかもしれません。がこれは國家的喜びであります。普遍的、一般的なものであり、子供が日誌をつけるにします。「昭和十六年十二月八日、先生の顔輝く。時局のこゝは何もわからん、大東亞建設の意義もわからん、南方共榮圏なき／＼といつても一寸もわからん。たゞ先生の顔輝く。」(笑聲)子供は難しいこゝは何も知りません。たゞ先生の時局の喜びだけは子供達にひ／＼と、永遠に影響するものであります。そこでその日の談話が、みんなに子供等に影響するにせう。桃太郎のお話をするにしても、語る先生に海外遠征の氣が溢れてゐる。稜威にまつろはぬものは飽く迄征服するに／＼意氣が溢れてゐる。それはきつ／＼子供

によく通じます。桃がドンブラコッコスッコッコ流れて來た。お婆さんが拾つて歸り、お爺さん／＼しよに切つてみるに桃太郎が生れたといふのでありますが、桃が嫌ひな先生ではこの話は死んでしまひます。私はバナナの方がいい、或は、流れよる椰子の實一つなき／＼いふセンチメンタルな先生もあるかもしれぬ。(笑聲)が、それではこの話は死ぬのであります。桃が食ひたくてたまらぬ先生が話してこそ、桃よ／＼早くこい、さなる。(笑聲)桃太郎が生れてくるのは後の話であります。流れてくる桃を拾ふのも食慾がさせる勇氣である。(笑聲)あれを持つて歸り、お爺さん／＼分けて食べたいといふ氣持であります。持つて歸るに赤ン坊が生れる。聞いてゐる子供の氣持にしては、あんなに食べたがつてゐるのが駄目になつてつまらないね、と思ふかもしれない。しかし強い子供が一人でも多く欲しいといふ國民的感情に燃えてゐるから先生はさうは思はない。こうして話がつぎ／＼發展してゆくのであります。鬼ガ島への遠征も、物欲的であるか又は正義であるか、今日の世界建設の氣持で話すかではそこに非常な違ひがあります。寶物は昔だから金銀珊瑚綾錦といひましたが、今ではへばガソリン、石炭、ゴム、錫、砂糖(笑聲)なき／＼語呂があひませんが、それこそ今日の寶物です。そして終りに萬歳、何かで萬歳が言ひたくてたまらないのが今日の日本

人の心なのであります。それかさいつて電車の中なごで突然萬歳ミやつては却つて人に心配をかけますから(笑聲)ひかへてゐて一緒の時にやるのですが――。子供はいろ／＼な方向からの嬉しいね、よかつたねであります。その一同の國民的感情に溢れてゐるから萬歳が出て來るのであります。皆様は今、古事記の話をなさるでせう。我々もして居りますが、面白くないけれど一週に一度はしなければいけないといふからするのよ。(笑聲)これが日本の國のはじまりなのですつて、本當か嘘か知らないけれどさうなのだそうです。あゝなのだそうです。(笑聲)さいつても子供等は少しも感興を起さぬでせう。それではいけないのです。

又よく古事記作者について話す方がありますが、これは童話學史の講義でもない限りいらぬことあります。子供は一々のお話を誰がつくつたか等さいふこまは一寸もかまひません。中には正直な方があつて、桃太郎の話は誰が作ったのか判りませんが、(笑聲)なごさいつてゐる方があります。古事記にしても、古事記の歴史的、文學的價値を子供に判らせる必要はありません。古事記の成立は、日本の理念的解釋としては重大であります。我々は、古事記の中の明朗、單純、清楚なる日本的喜びを傳へればよいのであります。あの中のごの話もこの日本的明朗の喜びを含んでゐますが、あの當時日本人の持つてゐた清楚な、素直な

喜びを我々の今の喜びに擴大するのでなければ、日本人が日本の古事記を話す價値がありません。つまり、我々の祖先の國民感情を傳へるのです。

久留島さんが一月に一回、ラヂオで我國の古典について子供達に話されてゐます。先頃もお會ひしていろ／＼話したごですが、これは非常に結構のごであるご共に、なかなか難しいごであります。此の間は萬葉を子供に話されたが、あの時、防人の歌をひいて來て、「防人の歌は今もありますね」さいはれた。日本人の感情が最も眞實に籠められてゐる萬葉なら、萬葉に於て今をあらはすのでなければなりません。傳統、お伽噺、何でも同様であります。まして生きた時局のお話に於ては尙更であります。昨日或る會員の方が軍神の話について、子供達にさいの位に話したらよいだらうかさいふお尋ねがありました。それで私はかうお答へした。「それは、程度をきめるのは難しいごであります。貴女の感激そのものを以てお話をさいませんか」さう申したのであります。その感激さいは何かさいへば、よくぞ戰つて下さいました。有難うございませぬ。これが感謝であります。えらいさい感心するよりも、有り難いさい感激するのです。これこそ子供等に傳へるべき事であるご思ひます。さう考へるご今日の幼稚園でしてゐられる談話さいふものは、眞實に我等の氣持をあふれさせるものでありま

す。私はその喜びを歌ふ唱歌が澤山欲しいと思ふ。我々が子供の時歌つた「あなうれし、よろこばし」の歌、あれを今日に歌ひたいのであります。「あなうれし、よろこばし」、戦勝ちぬ、百千の仇は皆あまなくなりぬ「事實そうなのです。昔の歌じやない。今の歌です。事實のまゝに、あゝ嬉し、

あゝ嬉し、戦勝ちぬ、實に單純であります。子供三手を取つてあゝ嬉し、あゝ嬉しといふ立派な皇民感情であります。手技で日の丸を塗つても、喜びで塗り、喜びで立てねば今日の教育ならぬのであります。皇民感情を喜びに於て把握させないものは今日の教育ではありません。

子供の心をほぐれさすこゝは、個人の力では非常に難しいこゝであります。玩具をなくして泣いてゐる子供に「何を泣いてゐるの、泣くのおよしなさい。人生は楽しいのよ」(笑聲)といつても、「又現實は失はれる。しかし來世は輝かしいのよ」(笑聲)等といつても、子供は嬉しがりはしません。たゞ國民的喜びは容易にさうさせ得るのであります。「玩具なんかさうでもない、ちやないの」、でもありませんが、「そんなこゝで泣くな。今御國はこんなに勝つてゐるのよ、嬉しいぢやありませんか」さかういつていゝと思ふのであります。理を教へ難く、義務を教へ難く、喜びのみを語りうる幼児達に、喜びを如實に語り得るがこそ現時局下の幼児保育で、それが、こんなに溢れる程出来る。誠に有難い

こゝであります。

そこで、國民的嬉しさを、國民的喜ばしさを、語れども語れども盡くせぬこの時局下に於て、その喜びから生れ出る教育方向として、子供をさういふ人間に育てようかといふ種種の問題があります。

時局下に於ても人間として大切な道德的價値は變るこゝはありません。特に現時局下に重點をおくならば、戦へる時局、建設する時局であり、その何れも長きにわたるのであります。これに向つての用意、これは今日の教育の必須條件であります。若い方は現時局下は自分で背負つてゐるこゝいふ氣持の方も澤山あるでせう。しかし、現時局は何年つゞくかわかりません。さうなるこゝ背負ひきれぬのであります。後を子供等に頼むより他ありません。しかつかりやつてくれ頼むのであります。さうするこゝ子供等曰く、「よろしい、安心して下さい。でも頼むばかりでは駄目だ、出来るやうにしておいてくれなければ」さかういふのであります。その出来るやうにしておくこゝいふのが教育なのであります。

教育は從來、普遍原理に於て爲されました。今日は後に托すべきこゝをなす様に思へますが、教育の普遍原理は變つたわけではなく、時局下その意義をますものと思ひます。

そこで、戦ミ建設の二つについて、さうしても必要なことは耐へることであります。そこで、これを假りに、耐久性の教育をいつておきます。

二、耐久性の教育

時局の始めに掲げられた堅忍持久、あれでよいのであります。たゞ持久といふは持ちこたへずぎてゐる感じなのでかう言つたのであります。戦も建設も事、容易ならざる事であり、この苦しさに耐へてゆくことも容易な事ではありません。この苦しさ、これを忍ぶのが第一であります。しかも、それが長き戦、長き建設なら、出来るだけ久しきに耐へねばなりません。幼児が久しきに耐へるさいつても今はそれ程期待できませんが、後におこなごなつては、非常に耐久してもらはなければなりません。一週間もの喰はず坂を上つてもらはねばなりません。五日、クリークにひたつてもはねばなりません。あの酷暑、あの炎熱の下に立ちつくしてもらはねばなりません。あの新しい土地で前は他のものだつたものを、今は自分のものとして建設してもらはねばなりません。そこにぎの位大きな耐久性を今の五つの子が具へなければならぬ時が来るかと思ふに、我々は武者標ひをするのであります。今は、出来ないが、さういふ事もやあらん器具へてゐる十年前の今日とは譯が違ふので

あります。今は、きつさういふことになるに、それを條件にこの時局が開始されたのであります。あの小さい子供をそれに耐へるやうにしておく事は時局そのものゝ要求するところであり、我々が時局から托せられた任務であります。

その耐久性は子供の生活の中で如何なる位置をもつものか先づそれを考へてみませう。幼児の生活は大體に於て、その生活力の發生のものは本能であります。生活全部が本能ではありませんが、本能的に出てゐるのであります。あの叢に入つて一匹のバツをタ根氣よく探す。あたかもジャングルをわけて敵兵を求め兵士の如し(笑聲)であります。中にはそれも出来ぬ子供もゐます。バツタは飛ぶものなり、此方へ来たらかまへよう(笑聲)等悟を開いたやうな子供もゐるでせう。が、多くの子供はさうではありません。大人は感心してゐます。實にえらい。私はこの間鉛筆をなくしたが探すのは面倒だから探さない、(笑聲)ところが子供はビードロの玉一つなくしても一生懸命探す、實にえらい。」

確かに偉いがこれは本能であります。本能であるさういふ事は、その生活に價値がないではありません。けれども教育的に考へて、本能生活のまゝでおいたならばさうなる

でありませうか。問題は二つあります。一つは、その本能がなくなつ時にはその生活はやんでしまふ。子供の時はパッタを追ひかけたが、四十になつても我本能によりパッタを追ひかける(笑聲)等といふのではない。また或は變つた本能も出て来ますが、本能そのまゝでおいたならば、子供の本能は大人につゞくものではありませんから何の頼りにもならず、本能それ自體が衰へるのであります。二つ三言つ

たその第二には、つまりその事だが、他の方面の所謂高等知能が発達して、本能の中にある知的、意的方面の一方だけが發達してくる。本能は知的、情的なものが渾然と發達してゐるのであつて、そのまゝつゞければ本能でありま

す。しかし私はこれまで、「本能は本能自體として發達する、幼くしては小本能、若くしては中本能、老いては大本能、若くしては中本能、老いては大本能なる」(笑聲)といふ學説をきいた事がありません。本能は必ず分化してきて、知能と情意に分れ、情意は更に情意に分れてゆくのであります。この各方面が発達して、心理的生活に入るのであります。そこで我々は子供の本能を尊重しますが、あれをそのままにしておけば、これが衰へるまいふことその他に、本能に二つある發達方向が一しよになるまいふこと、情意と知能の發達がちがふことになるかもしれません。子供の本能的渾成生活はちがはぐであります。問題は、知

能も本能から構成してゆかねばならぬといふことであります。遊戲をする時も情と共に知の發達もはかるまいふのになければなりません。こゝにいふ耐久性の教育は、本能を情意に置き換へねばならないといふ事です。パッタを三十分追ふ、頼もしい子供であります、これがいつまでつゞくでありませうか。

保育は本能を漸次知的、情意的にかへてゆくことであります、その中 耐久性教育は本能の情意的方面をすゝめてゆくことであります。幼児の耐久性教育に於て、本能を無視して、たゞこれを忍耐競べ(笑聲)といふのではなかなか難しいのであります。明後日發表される體力競技もこの邊に工夫があるのであります。我々でしたら、一つ一つ體力を鍛へるべく體操が出来ますが、幼児では競技即ち本能に訴へるのであります。しかし、本能を味附けることはしますが、それを意圖そのものにかへる事を目的としなければなりません。中にはこれを説明して、「あなたはパッタばかり追ひかけるけれど、それは偉くないことなのよ、本能なのよ」(笑聲)と徐ろに説明して、「でせう、ざるべからざるでせう、時局下必要でせう、かういふことは時局下必要でせう、だからしませう」(笑聲)等といつて、パッタのゐないところで「叢かきわけ體操」(笑聲)をするわけにはゆきま

せん。本能をつかつてはるるが、狙ひ所は意志にかはつてゆく、進んでゆくさいふのでなければなりません。子供はよく喧嘩をします。相當強い生活であります。喧嘩の出來ぬ子供には多分戦も出來ないであります。人を泣かしたりするのはいさも頼もしいものです。(笑聲)中には喧嘩の出來ない子供もゐませう。「我人三争ふを欲せず」なごさいふ、明日入滅する高僧のやうな子供もゐるかも知れませぬ。(笑聲)しかし、子供は本能だからする、あゝ頼もしいと思ふ。この子が幾歳になつても大本能、博徒の親方になつては困りますが。(笑聲)しかし、腹がたつて「イー」さや、我慢するのは本能ではないから喧嘩しましたさいふばかりではいけない。手をふるはして打たぬ、齒をくひしばつて泣かぬ、

これは本能ではありません。喧嘩をみつけるこ、幸なるかな本能暴露、(笑聲)この機會を利用して、さいふわけで、先生も片方に加勢して本能のあらはれだもつこやれ／＼こ應援する。(笑聲)これも大切でありますが、本能を高めるこ共に耐久性を養はなければなりません。

今日賤さいふこが重んぜられてゐますが、皆様のやうな美的、道德的淑女は、美的道德的賤をなさる。よい子供さいふ言葉が、人生美的及び本能的言葉であります。よ

い子供の事には、強さも含むのでありますが、兎角スフに糊づけして鍍したる(笑聲)——こんな言葉はないでせうが、——子供さいふやうなこになりがちではないでせうか。教育はこごごこく、みてくれの結果をならべてゐるのではありません。賤教育に於て、みてくれの結果をならべてはならないのであります。賤は自由主義に對する言葉であります。賤教育は、如何に賤られて行くかさいふ事であります。私はあまりしたこごはないのですが、布地にアイロンをかけてみますこ、一寸折目をつけるこすがびたつこなる布もありますし、又、なか／＼おさへられないのもあります。子供にも一寸折目をつけるこすぐ押へられる賤い／＼子もあります。その賤に對抗する程の本能をもちあはせてゐないのであります。反對に、本能が強くてなか／＼賤られない子供もあります。

賤は外からやつてゆく事ではありますが、内の力を外にかりてやつていゝのであります。先生が子供をなぐる時、あなたの良心に代つてなぐるのよ、つねるのよ、(笑聲)さいへる。良心に代つてさいふのは、先生からいへば、あなたを愛するが故に、さいへるのであります。相手の子供からいへば、自分で自分をさうすることゝ出來ぬ年齢が、他人の力を借りて抑へてゐる、自らを抑へるこごを他人の力を借りてするのであります。賤は耐久性を養ふこごで

あります。本能から意志にうつる力を、外からたすけるのが躑であります。習慣は躑であるといひますが、繰返せば物でもさうなりませんが、躑はそんな物理現象ではありません。

たゞ機械的に繰返されてゐるのではなく、生活の戦も矛盾もそこに繰返されてゐるのであります。約束する、きつミかうしませうミ約束する、そして、さうして約束通りしなかつたの、いけませんね、叱る。しかしきめたことが、さうしてなか／＼出来ぬのがあたりまへであると思ふのであります。きめた通りにする事がたやすく、出来る子なら針金か蠟細工であります。(笑聲)さうなれどいつても容易にさうならぬのが遅ましい子供であります。しかし、耐久性を養ふのはそれでは出来ぬのであります。普段優しい先生がきつい眼で睨む、子供は先生の眼にハッと思つて齒をくひしばつてやるのであります。これを道徳にかへれば、自己に對する責任であります。昔の武士は、武士たるものこれに耐へずしてすまうかさいひ、今の兵士は、日本の兵士たるものこれに耐へずしてすまうかさいいつて耐へたのであります。これを普遍的にいへば、我たるものこんなこゝでよかるべきやさいふ事になります。武士であり、兵士である我に對する自己責任感であります。外の力で意志的に本

能を誘導する貴女は子を躑けるべく強き意志の所有者でなければならぬこゝ申す迄ありません。

もう一つ彼自身に訴へるものがあるをすれば、それは自己責任感であります。これは實に難しい。日本人は切腹をする。切腹は昔の話ではありません。戦争が始つてすでに何人かの軍人が或は船長の方が、自己責任感から自決されました。これは自己の生活の扱ひ方であります。しかしこんな高尚な自己責任感を子供に與へることは出来ません。また「先生、約束を守らないですみません。切腹してお詫びします。ウーン」(笑聲)なきさいふのでも困る。しかし、自己責任感にゆく一つの道としての、子供らしきの幼い姿にして、はづかしいさいふ事、口惜しいさいふ事、これは大切であります。これは一つにくつゝいた裏表であります。中には一方だけ發達してゐる方もありますが――。

ある子供ははづかしめてよい。口惜しがらせてよいのであります。きめておいて、その通り出来なくてはづかしくないか、口惜しくないかさいいつてよいのであります。しかも、こゝではつきり申しておくことは、そのはづかしい、口惜しいを對他的に責任轉換してはならない、それ僅かに自己を慰めてはならない、さいふこゝであります。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

日本幼稚園協會規則

會長 東京女子高等師範學校長 下村壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
 附屬幼稚園主事

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハニヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應ジテニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二面一頁
半年分	金貳圓壹錢	金貳拾五圓	金拾五圓
全年分	金四圓貳拾錢	金貳拾圓	御斷り
拾貳冊送金	共	神田區一ツ橋ノ七品田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和十七年八月二十八日印刷納本
 昭和十七年九月一日發行

幼兒の教育 第四十二卷 第八・九號

不許複製 禁止轉載

編輯 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 發行所 倉橋惣三
 印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 發行所 振替口座東京一七二六六番

發行所 日本幼稚園協會

注文規定

一、本誌御註文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。
 (郵券代用の場合ははるべく振替貯金で振替口座御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番 日本幼稚園協會宛に願ひます)
 送金の節には第何巻何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

キンダーブック改題◇月刊幼兒繪雜誌◇

觀察 繪本 ミクニノコドモ

お子たちの保育に——時代は要望する



幼稚園に託兒所に家庭に、幼兒保育の重要な一役を擔ふ繪本を。

明るい面白さ、正確で健全な繪本を「強い日本」の「強い子ども」の爲に。

大東亞共榮圈確立の逞しい指導的意慾を盛つた、力強い繪雜誌「ミクニノコドモ」を。

觀察繪本「ミクニノコドモ」の編輯は次の陣容を整備してゐる。

- 倉橋惣三先生、岸邊福雄先生、清水長雄先生、西條八十先生、小松耕輔先生、三田谷啓先生、西村眞琴先生、及川ふみ先生、小川正道先生、和田實先生、高崎能樹先生、土川五郎先生、久保良英先生、久留島武彦先生、赤羽吉子先生、關寛之先生其他十數氏。

毎月二十七日全國書店一齊發賣
一册 定價 金三十五錢

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回發行)

昭和十七年八月二十八日印刷納本
昭和十七年九月一日發行

定價七拾錢

館育保本日 社會式株

本社 東京・神田・神保町二丁目・四
出張所 大阪・東區・備後町五丁目・二六
電話 (33) 三三八二番
電話 (24) 九三七八番